公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 26 年度 第 7 回理事会

開催日時　　平成 26 年 12 月 8 日（月）
　　15 時 15 分から 17 時 30 分

開催場所　　東京大学理学部 1 号館 3 階 336 号室
　　（東京都文京区本郷 7－3－1）

平成 26 年度第 7 回理事会議事次第

1. 開　　会

議事内容

2. 報 告 事 項
  1. 委員会・セクション活動報告
    1. 総務委員会活動報告
    2. ジャーナル編集委員会活動報告
    3. 大会運営委員会活動報告
    4. キャリア支援･男女共同参画委員会活動報告
    5. 情報システム委員会活動報告
    6. 顕彰委員会活動報告
    7. グローバル戦略委員会活動報告
    8. 固体地球科学セクション活動報告
  2. その他

3. 審 議 事 項
  第 1 号議案　会員（正会員）および賛助会員入会承認の件
  第 2 号議案　委員追加承認の件
  第 3 号議案　委員の資格について
  第 4 号議案　地球惑星科学振興西田賞規則改正の件
  第 5 号議案　平成 27 年度事業計画について
  第 6 号議案　平成 27 年度予算について
  第 7 号議案　大会における AGU 会員の取り扱いについて
  第 8 号議案　AGU との会議について
  第 9 号議案　その他

4. 閉　　会

（資　　料）

報告事項

1.	委員会・セクション活動告	
	1 総務委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	共催・協賛・後援等一覧（10 月以降分）・・・・・・・・・・・	P.1
	日英標準対応表・・	P.2-5
	2 ジャーナル編集委員会・・・・・・・・・・・・・・・	P.6-
	3 大会運営委員会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	2015 年大会セッション一覧	P.
	2016 年大会、2017 年大会 APA ホテル会場について	
	4 キャリア支援･男女共同参画委員会報告・・・・・・・・・・・	P.10-11
	5 情報システム委員会報告　メールニュース不達に関する経過報告書	P.
	6 顕彰委員会活動報告	
	フェロー募集について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P.12-13
	地球惑星科学振興西田賞について・・・・・・・・・・・・・・・	P.14-15
	日立環境財団環境賞募集について	P.
	学生賞小委員会委員決定、システム改修経過報告・・・・・・・・	
	7 グローバル戦略委員会活動報告 Global Strategy Com Meeting ・・・・・・・・・・・・・・・・	
	8 固体地球科学セクション活動報告	

審議事項

1.	会員（正会員）入会承認の件・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	平成 26 年 8 月～9 月　入会者一覧	P.
	賛助会員入会申込書	P.
2.	委員追加承認の件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P.
3.	委員の資格について・・・・・・・・・・・・・	P.
4.	地球惑星科学振興西田賞規則改正の件・・・・・・・・・・・・・・・	P.
5.	平成 27 年度事業計画について・・・・・・・・・	別紙
6.	平成 27 年度予算について・・・・・・・・・・・・・・	別紙
7.	大会における AGU 会員の取り扱いについて・・・・・・・・・・・・・	P.
8.	AGU との会議について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P.
9.	その他	

その他の資料

	平成 26 年度第 6 回理事会議事録・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P.別添

特集1

世界のオープンアクセス政策と日本：研究と学術コミュニケーションへの影響

研究成果として論文を出版し、新しい知見や学識を世に残し、人類の知識として共有するという学問の有り様は、21世紀に入って急速にその姿を変えつつある。研究資金の使い方の中に、論文をオープンアクセス出版することを求め、また、その成果として論文情報が産学官で自在に活用することができ、社会に還元しようとする国策が、例えばHorizon 2020に代表されるように欧米で活発に議論されている。研究が学際化し、人と情報がグローバルなスケールで自在に動く今、日本にも欧米の政策の影響が現れ始めている。論文出版を、研究費を使ってオープンアクセス出版（無料で閲覧出来るように）することにとどまらず、誰でも論文著作権を履行できるようにする利活用の仕組み（クリエイティブコモンズ）も、日本に漂着している。我が国では、2010年に発出した日本学術会議の提言を受け、我が国発の国際的なリーディングジャーナル育成プロジェクトが強力に推進されている。上記のこのような学問を取り巻く新たな環境が、研究現場やコミュニケーションの場面、そしてジャーナル育成プロジェクトに及ぼす影響と対策を多面的に科学者が議論する場として日本学術会議主催学術フォーラムを企画した。

2014年3月13日に企画した学術フォーラムは、日本学術会議講堂がほぼいっぱいになる盛況さで、活発な質疑も行われ、本件に関する学術コミュニティーの関心の高さを伺うことになった。

本特集では、学術フォーラムの登壇者に国内外の現状を紹介していただき、また、それに基づいて議論された内容を、広く、科学者コミュニティーと共有することを通じて、科学者一人一人が考える際の基礎となることを目指している。多くの方々に読んでいただき、情報を共有するとともに、皆様が、日本から世界への学術情報発信のあり方を考え、それぞれの分野ごとに、効果的な国際情報発信をしていただくことを、心からお願いしたい。

第22期日本学術会議科学者委員会学術誌問題検討分科会副委員長
同広報分科会副委員長
（独）海洋研究開発機構東日本海洋生態系変動解析プロジェクトチームプロジェクト長
北里 洋

平成26年度　共催・協賛・後援等一覧 （10月以降分）

2014/12/5 12:09

承認日	種別	会合名等	開催期間	会場
11月13日	協賛	SEGJ第12回国際シンポジウム	2015年11月18日（水）～20日（金）	東京大学　伊藤国際学術研究センター
申請中	協賛	2015年ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム（HPCS2015）	2015年5月19日（火）～20日（水）	東京大学武田先端知ビル5F　武田ホール
申請中	協賛 大気水圏科学セクション	オープンフォーラム「水関連研究成果の日本からの発信に向けて」	2015年3月7日（土）	筑波大学東京キャンパス　116講義室
申請中	協賛	未来を拓く高圧力科学技術セミナー40	2015年2月10日（火）	東京大学山上会館

日本地球惑星科学連合　日英標準対応表

Standard Terms Japanese-English Dictionary

2014年12月8日暫定版

Version 2014.Dec.8 (tentative)

1 【組織関連】 organizations

構成、規則等 structure, rules and others

No.	日本語	English	対案
1-1	日本地球惑星科学連合	Japan Geoscience Union	
1-2	(略称)	JpGU	
1-3	公益社団法人	public interest incorporated association	
1-4	会員	member *	
1-5	正会員	regular member	
1-6	準会員	student member	
1-7	団体会員	society member	（案1）corporate member （案2）group member
1-8	賛助会員	supporting member	
1-9	名誉会員	honorary member	
1-10	役員	officer	
1-11	理事	director	
1-12	代表理事	representative director	
1-13	業務執行理事	executive director	
1-14	常務理事	managing director	
1-15	専務理事	senior managing director	
1-16	監事	auditor	
1-17	会長	president	
1-18	副会長	vice president	
1-19	理事会	board of directors, meeting of directors	
1-20	経営企画会議	management planning meeting	
1-21	学協会長会議	meeting of representatives of society members	（案1）assembly of presidents of academic association members （案2）meeting of presidents of society members
1-22	社員総会	general meeting of delegate	
1-23	定時社員総会	regular general delegate meeting	
1-24	臨時社員総会	extraordinary general delegate meeting	ad-hoc general delegate meeting
1-25	社員	delegate *	
1-26	代議員	representative	
1-27	議長	chairperson	
1-28	議事録	minutes	
1-29	事務局	secretariat	
1-30	主たる事務所	head office	
1-31	公益社団法人日本地球惑星科学連合定款	Japan Geoscience Union, public interest incorporated association Articles of Incorporation	
1-32	法人運営基本規程	Basic regulations on operation of Incorporation	
1-33	法人運営基本規則	Basic rules on operation of Incorporation	

サイエンスセクション、委員会 science sections, committees

1-34	ユニオンサイエンスボード	Union Science Board	
1-35	宇宙惑星科学セクション	Space and Planetary Sciences section	
1-36	大気水圏科学セクション	Atmospheric and Hydrospheric Sciences section	
1-37	地球人間圏科学セクション	Human Geosciences section	
1-38	固体地球科学セクション	Solid Earth Sciences section	
1-39	地球生命科学セクション	Biogeosciences section	
1-40	登録区分	electoral zone	（案1）electoral division （案2）electoral group
1-41	地球惑星総合	General Earth and Planetary science	
1-42	プレジデント	president	
1-43	バイスプレジデント	vice president	
1-44	幹事	executive secretary	
1-45	ボードメンバー	board member	
1-46	委員長	chairperson	
1-47	副委員長	vice chairperson	
1-48	幹事	executive secretary	
1-49	総務委員会	General Affairs Committee	
1-50	財務委員会	旧）Financial Committee 新）**Finance Committee**	
1-51	広報普及委員会	Publicity and Outreach Committee	
1-52	JGL編集委員会	JGL Editorial subcommittee (JGL Editorial committee)	
1-53	環境災害対応委員会	旧）Environmental Hazard Countermeasure Committee 新）**Environment and Disaster Coping Committee**	
1-54	男女共同参画委員会	Gender Equality Committee	
1-55	キャリア支援委員会	誤）Carrier Supporting Committee **正）Career Supporting Committee**	Career Support Committee
1-56	情報システム委員会	Information System Committee	
1-57	ジャーナル企画経営委員会	旧）Steering and Planning Committee of Journal **新）Publications Steering and Planning Committee**	
1-58	ジャーナル編集委員会	旧）Editorial Committee of Journal **新）Editorial Committee of PEPS**	
1-59	大会運営委員会	JpGU Meeting Organizing Committee	
1-60	プログラム小委員会	Program Subcommittee (Program committee)	
1-61	大会事業計画小委員会	Subcommittee for Meeting Business Plan	
1-62	教育検討委員会	Educational Affairs Committee	Committee on Earth Science Education

1-63	大学及び大学院教育小委員会	University and Graduate School Education Subcommittee	
1-64	地学教育小委員会	Earth Science Education Subcommittee	
1-65	教員養成等検討小委員会	Teacher Training and Development Subcommittee	Committee for teacher training and related matters Teacher training Subcommittee Teacher training and development Subcommittee
1-66	教育課程小委員会	School Curriculum Subcommittee	
1-67	グローバル戦略委員会	Global Strategy Committee	
1-68	選挙管理委員会	Election Administration Committee	
1-69	役員候補者推薦委員会	Committee for Recommendation of Candidates for Excective officers	Nominating Committee for Executive Officers Executive Officers Nominating Committee
1-70	フェロー審査委員会	Fellow Review Committee	Fellows Selection Committee
1-71	地球惑星科学振興西田賞審査委員会	Selection Committee for Nishida Prize for Promotion of Geoscience	
1-72	25周年記念事業実行委員会	25th Anniversary Celebration Executive Committee	Committee for the 25th Anniversary Projects The 25th Anniversary Projects Committee
1-73	褒賞委員会	Awards Committee	
1-74	学生優秀発表賞審査小委員会	Subcommittee for the Outstanding Presentation Award	Subcommittee for Outstanding **Student** Presentation Award
1-75	国際学術委員会 (2014.3.8グローバル戦略委員会へ改称)	Committee for International Affairs	
1-76	学術出版委員会 (2014.7.12ジャーナル関連委員会へ発展)	Publications Committee	
1-77	大会運営委員会情報局 (2014.8.23廃止)	Information Agency	
1-78	フェロー制度準備委員会 (2014.8.23廃止)	Preparatory Committee for Fellowship	
1-79	25周年記念事業準備委員会 (2014.8.23実行委員会へ改称)	Preparatory Committee for 25th Anniversary Celebration	
1-80	学協会連絡委員会 (2014.8.23廃止)	Representatives of Society Members Liaison Committee	
1-81	国際戦略対応事務局体制 強化検討ワーキンググループ	Working group on reinforcement of secretariat for international strategy	
1-82	公益社団法人日本地球惑星科学連合フェロー	Japan Geoscience Union fellows / fellowship (as program)	
1-83	地球惑星科学振興西田賞	Nishida Prize for Promotion of Geoscience	
1-84	大会委員長	Director of JpGU Meeting	
1-85	プログラム編成会議	Program Organizing Board	
1-86	プログラム委員会	Program Subcommittee (Program committee)	
1-87	プログラム局	Program Agency	

2	【会員登録関連】	registration	
2-1	一般	regular	
2-2	小中高等学校教員	elementary, junior and high school teacher	
2-3	大学院生	graduate student	
2-4	研究生(無給の大学院を卒業した者)	postgraduate	
2-5	学部生	undergraduate student	
2-6	学部生以下	undergraduate student or younger	
2-7	高校生	high school student	
2-8	シニア	aged 70 or over	

3	【選挙関連】	election	
3-1	代議員選挙投票	the representative election vote	
3-2	推薦者	recommender	nominator
3-3	立候補者	candidate	
3-4	選挙者（投票者と認識）	voter	
3-5	被選挙者	person eligible for election	
3-6	投票権	voting right	
3-7	投票率	voting rate / turnout	
3-8	定数	numbers	quorum

4	【大会関連】	meeting	
	大会組織関連	meeting organization	
4-1	大会	meeting	annual meeting
4-2	会員登録	membership subscription	
4-3	年会費	annual due	
4-4	参加登録	registration	
4-5	大会参加費	JpGU Meeting registration fee	
4-6	提案者	proposer	proponent
4-7	代表コンビーナ	convener（main convener）	
4-8	共同コンビーナ	co-convener	
4-9	パブリックセッション	Public Session	
4-10	学術セッション	Scientific Sessions	
4-11	ユニオンセッション	Union Session	
4-12	宇宙惑星科学セッション	Space and Planetary Sciences Session	
4-13	大気水圏科学セッション	Atmospheric and Hydrospheric Sciences Session	
4-14	固体地球科学セッション	Solid Earth Sciences Session	
4-15	地球人間圏科学セッション	Human Geosciences Session	
4-16	地球生命科学セッション	Biogeosciences Session	
4-17	教育・アウトリーチセッション	General (Education and Outreach) Session	
4-18	領域外・複数領域セッション	Mutlidisciplinary and Interdisciplinary Session	
4-19	協賛	co-sponsor	
4-20	後援	Sponsorship	

	大会システム関連	meeting system	
4-21	セッションID	Session ID	
4-22	セッション大記号	Session Category	
4-23	セッション小記号	Session Sub Category	
4-24	セッション番号	Session Number	
4-25	同時間回避希望セッション	the same session on avoiding time overwrapping	request for non-overlapping sessions? sessions with requests for overlap avoidance sessions to avoid parallel scheduling Avoid scheduling parallel sessions Avoid scheduling overlap sessions
4-26	継続開催希望セッション	the same session on successive session request	sessions with requests for successive time slots sessions to be held successively
4-27	採択する（採択）	adoption	
4-28	早期投稿	Advance submission	
4-29	通常投稿	(Normal) submission	
4-30	早期投稿料	Advance submission fee	early-(bird)?
4-31	投稿番号	Submission number	
4-32	登録番号	Acceptance number	
4-33	提案番号	Proposal number	
4-34	確認メール番号	Tracking number	
4-35	参加登録番号	Registration number	
4-36	参加種別	JpGU Meeting Registration Category	
4-37	投稿状況	Status for submission	Status of submission
4-38	登録状況	Registration Status	
4-39	タイトル	Abstract title	
4-40	投稿料	Abstract-submission fee	
4-41	決済方法	Payment status	Payment method / Settlement method
4-42	登録	Registration	
4-43	更新日	Update date	
4-44	登録済	Submitted	
4-45	登録中	Submission in progress	
4-46	未決済	Submission-fee unpaid	
4-47	図投稿	Image Attachment	
4-48	予稿集原稿投稿	Abstract Submission	
4-49	予稿集新規投稿	New abstract submission	
4-50	提案更新	Submission update	
4-51	提案取下	Submission withdrawal	
4-52	大会投稿要領	Instructions for abstract submission	
4-53	著作権規則	Copyright regulations	
4-54	投稿者	Contributor	
4-55	著者	Author	
4-56	発表者	presenter	
4-57	座長	chair	
4-58	指導教官	Supervisor	
4-59	自動作成	automatically created	
4-60	希望セッション	preferable session	preferred session
4-61	予稿集本文	abstract body	
4-62	使用希望機器	extra presentation equipments	
4-63	改行する	begin a new line	
4-64	通常投稿料	(Normal) submission fee	
4-65	コマ割り	session layout, adjust allocation	
4-66	全日程券	Full Conference Ticket	
4-67	１日券	24-hours Ticket	
4-68	早期参加登録	Pre-registration	
4-69	参加登録	Registration	
4-70	早期参加登録料金	Pre-registration fee	
4-71	参加登録料金	Registration fee	
4-72	懇親会	party	welcome party
4-73	発表形式	presentation mode	
4-74	招待講演とそうでないものの表記	presentation type	
4-75	プログラム掲載タイトル	short title	
4-76	申込種別	classification	
4-77	有料	charged	
4-78	無料	free	
4-79	適用	Payment rate	
4-80	参加種別	Participation Category	
4-81	参加問合せ番号	Tracking No.	
4-82	講演番号	presentation number	
4-83	懇親会申込	ticket for party	
4-84	登録・更新日	Date of Registration and Update	
4-85	高校生発表	Poster Presentation by High School Students	
4-86	ジオパーク	Geopark	
4-87	事前参加登録受付カウンター	Pre-registration Counter	
4-88	総合案内デスク	General Information Desk	
4-89	当日受付デスク	On-site registration Desk	
4-90	学割申請登録	Student Discount Application	

* 法人法の社員について
法人法（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律）上の社員は通常「member」とされますが、日本地球惑星科学連合の組織構成上「会員」の訳語に「member」をあてます。連合において法人法上の社員はdelegateをあて、代議員および団体会員がこれにあたります。
* Concerning use of the term 'member'
The JpGU use of the English expression 'member' corresponds to the expression 'delegate' as used in the 'Act on General Incorporated Associations and General Incorporated Foundations'. 'Member' as used in the above Act consists of both

12/8 理事会資料（PEPS 関連）

1. JSPS の実地検査
　11/7　JSPS が来所し実地検査を実施、概ね合格との評価を得る

2. WOS（トムソン・ロイター）の登録申請準備
・AGU, EGU, 台湾，ベトナム，フィリピンから推薦状入手
・論文出版目標本数の年内２５本のめどはたったが、引用数が伸びていないため
　WOS の申請時期の見直しを編集長会議で検討
　（12/2 現在　引用 5 件（自己引用１）、Springer 判断は 10 件以上の引用が望ましい）

3. 11/19　H26 年度第 5 回編集長会議開催
・WOS 申請、8 月移行の新投稿・査読・出版システムの問題点、出版までの期間短縮等について検討
　（投稿-出版の平均日数約１８７日、論文の長さを考慮すれば決して長くはないが、問題点は改善して行く）
・編集委員の任期を 2 年で依頼しており、来年度は再任・改任手続きがか必要。
　日本学術振興会による来年度の中間評価の際のアピールも考慮し、現在は立ち上げるためすべて日本人編集長+総編集長の体制となっているが, 国際化のために外国人編集長 and/or 総編集長を加える事も視野に入れ、現在 Elsevier などの国際誌の編集長（通常 2, 3 名）格の方を紹介してもらい, 新体制を準備・検討していくこととなった。

4. 11/21　2015 連合大会特別セッションを企画経営委員会メール会議で採択
　8 件提案、6 件採択（内 1 件辞退）→5 セッション 16 名招聘（支援額 488 万円）

5. 12/1　英語版の出版論文ハイライトを HP に掲載
　（当初日本語版のみ、英語版の要望に対応）

6. 2015 年度「ジャーナル関連特別シンポジウム」第一回募集開始
　（予定、12 月末締切）

7. 論文投稿・出版状況（詳細は別表参照）
・出版論文数 23（editorial3, Correction1, Reserach 13, Review6）
・投稿/査読中 27（内年内６本出版予定、EM 移行後 19 件投稿）
・reject/withdrawn 済 15 件

■出版状況

	Review	Resarch	Methodology	Total	
1. Space and planetary sciences	2	1	0	3	15.8%
2. Atmospheric and hydrospheric sciences	1	3	0	4	21.1%
3. Human geosciences	0	1	0	1	5.3%
4. Solid earth sciences	2	7	0	9	47.4%
5. Biogeosciences	1	0	0	1	5.3%
6. Interdisciplinary research	0	1	0	1	5.3%
Subtotal	**6**	**13**	**0**	**19**	100%
Editorial	–	–	–	3	–
Correction	–	–	–	1	–
Total				**23**	

■投稿状況

	Review	Resarch	Methodology	Total	
1. Space and planetary sciences	5	8	0	13	21.3%
2. Atmospheric and hydrospheric sciences	5	7	0	12	19.7%
3. Human geosciences	1	3	0	4	6.6%
4. Solid earth sciences	7	13	1	21	34.4%
5. Biogeosciences	2	2	0	4	6.6%
6. Interdisciplinary research	2	5	0	7	11.5%
Subtotal	**22**	**38**	**1**	**61**	100%
Editorial	–	–	–	3	–
Correction	–	–	–	1	–
Total				**65**	

■編集状況

	Review	Resarch	Methodology	Editorial + Correction	Total	
Published	6	13	0	4	23	35.4%
Accepted	1	5	0	0	6	9.2%
Under review	8	13	0	0	21	32.3%
Rejected/Withdrawn	3	11	1	0	15	23.1%
Total	**18**	**42**	**1**	**4**	**65**	100.0%

件名: [peps_ce 703] ご報告：Thomson Reuter への登録について
日付: 2014 年 11 月 23 日 9:37:41 JST

PEPS 編集長各位

おはようございます．編集長会議の時の話題も含めてご報告いたします．
Thomson Reuter への登録ですが，現在 25 本出版されているので，登録の最小限とされ 24 本をクリアしています．

１）recommendation letter については，
川幡穂高　AGU，台湾，韓国
Simon　EGU
高橋幸弘　ベトナム，フィリピンなどから頂ました．

２）登録に際し，最大の難関は，（自己引用を除く）引用が４つしかないことです（これは私達でどうすることもできません）．しかも，もし，申請に失敗すると，２年間は申請できません．
また，申請して，採択される率は 10%程度で，特に新規出版については，厳しい状況です．

３）本件は，基本的に事情を一番知る，SPRINGER 本社の登録担当の方の意見ですが，「申請を来年度に延期した方よいのではないか」との意見をいただきました．たぶん，24 本に達するのは，来年４月頃にはクリアできるので，連合大会の前に申請できればと思っています．

４）それに伴い１２月に（急いで）受理をしなければならない，といった論文を除いて，１月の受理にしておいた方が，Citation の計算などに，著者も得なので，そのようにしたいと思います．
予定より後にずれてしまいましたが，出版自体は EM になり，スムーズに推移しております．

なお，本件は，日本地球惑星科学連合の方へは，次回理事会で報告し，その後，著者に連絡したい（少し約束と違うので，特典をつけたいと思います）と思います．まずは，編集長の方々にメールする次第です．
よろしくご理解のほどお願いいたします．

川幡穂高

AGU
American Geophysical Union

20 November 2014

Thomson Reuters
Publication Processing
1500 Spring Garden Street
Fourth Floor
Philadelphia, PA 19130
USA

Dear Thomson Reuters Editors:

We are writing to convey the support of the American Geophysical Union for listing the journal, *Progress in Earth and Planetary Science* (PEPS), in Thomson Reuters' *Web of Science*. PEPS is the primary scholarly journal of the Japan Geoscience Union, which brings together many leading academic societies across Japan. PEPS is a fully open-access journal published in partnership with Springer, and has already received and published a number of important papers in the Earth and planetary sciences. The papers and publication meets the high standards expected of an important scholarly journal and are available in multiple formats, including epub and pdf.

The goal of PEPS is to publish original research articles and reviews across the Earth and planetary sciences, and thus foster awareness of the reach, import, and interactions among the more disciplinary sections of our science. The journal has many top scientists within its editorial board, including leading scientists in the United States, Europe, and elsewhere in Asia, and published papers already include leading scholars from around the world.

The American Geophysical Union, founded nearly 100 years ago, is dedicated to the furtherance of the Earth and space sciences globally, and to communicating our science's ability to benefit humanity. We feel that PEPS provides an important additional scholarly journal that will help meet these goals, which are also supported by the Japan Geoscience Union. We thus strongly support including PEPS as a reputable and important journal representing and conveying our science within *Web of Science*.

Yours sincerely,

Christine W McEntee

Christine McEntee
Executive Director/CEO, AGU

2000 Florida Avenue, NW, Washington, DC 20009-1277
Tel: 202.462.6900
Fax: +1 202.328.0566
www.agu.org

Carol Finn
President, AGU

Brooks Hanson
Director, Publications, AGU

European Geosciences Union

www.egu.eu

European Geosciences Union (EGU)
EGU Executive Office ▪ Luisenstr. 37 ▪ 80333 Munich ▪ Germany

Your Contact:

Dr. Philippe Courtial

EGU Executive Secretary

Phone +49-89-2180-6521
Fax +49-89-2180-17855

executive-secretary@egu.eu
http://www.egu.eu

25.11.2014 | Page 1/1

To whom it may concern,

Professor Simon Wallis, one of the Editor of the publication “Progess in Earth and Planetary Science” (PEPS), has asked me to write in support of the Journal’s application to include its contents in the Thomson Reuters ISI Web of Knowledge. I strongly support Prof. Wallis’ request.

“Progess in Earth and Planetary Science” is the official journal of the Japan Geoscience Union (JpGU), an organisation representing Japanese earth and planetary science related societies. The journal was launched in partnership with a publisher Springer in April 2014. It is an international peer-reviewed open access e-journal which covers the fields of space and planetary sciences, atmospheric and hydrospheric sciences, human geosciences, solid earth sciences, and biogeosciences. It publishes original research and reviews articles, as well as articles based on the best presentations given at the JpGU Annual Meeting. Approximately half of the members of the PEPS Editorial Committee are based in Japan, and half overseas.

The Journal represents an extremely valuable addition to the geoscientific community. It is a platform for the publication of high-quality research articles. Topics cover a great variety of issues of earth and planetary science. Contributions are on original topics and provide new insights into the geoscientific research. Furthermore, “Progess in Earth and Planetary Science” is a open access journal and therefore responds to the growing demand to make research free and available to anyone with a computer and an internet connection.

For all of these reasons, I believe indexing the journal “Progess in Earth and Planetary Science” in the Thomson Reuters ISI Web of Knowledge is an extremely valuable step for the earth and planetary science community. I support the journal application wholeheartedly and I strongly recommend its listing by ISI.

Kind regards,

Philippe Courtial
EGU Executive Secretary

European Geosciences Union
5, rue René Descartes
67084 Strasbourg Cedex
France

Prof. Günter Blöschl | President
Dr. Roland Schlich | Treasurer

EGU Executive Office
Luisenstr. 37
80333 Munich
Germany

Phone +49-89-2180-6549
Fax +49-89-2180-17855

secretariat@egu.eu
http://www.egu.eu

Letter of Recommendation for the Journal of Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)

To whom it may concern,

Dr. Kawahata, Section Chief Editor of PEPS, has asked me to write in support of the Journal's application to include its contents in the Thomson Reuters ISI Web of Knowledge. I strongly support Dr. Kawahata's request.

PEPS is an international peer-reviewed open access e-journal that was launched by the JpGU in partnership with Springer in April 2014. PEPS publishes original research articles and reviews in the fields of space and planetary sciences, atmospheric and hydrospheric sciences, human geosciences, solid earth sciences, and biogeosciences. PEPS serves as a platform for the publication of high-quality research articles covering a wider field than the usual specialist journals; and comprehensive review articles written by active scientists aimed at helping young researchers and those new in the field to learn about the latest topics in earth and planetary science.

Although only six months old PEPS has already published more than twenty articles and three of these are already flagged as Highly Accessed by SpringerOpen. SpringerOpen publishes many thousands of papers each month, and one of our articles is now in their top 100 most viewed list. Details of our papers and their access numbers may be found at http://www.progearthplanetsci.com/mostviewed/year, and further information about PEPS is provided on the journal websites at http://www.progearthplanetsci.com and http://progearthplanetsci.org/index.html.

The journal meets subscribers' current interests and information retrieval needs. Contributions are well written and carefully edited with clearly structured abstracts and keywords. Special emphasis is placed on high quality and expressive graphics. PEPS follows publishing standards with current references.

In summary, PEPS is an internationally diverse and well-established journal in the field of geoscience and planetary science. I believe indexing this Journal in the Thomson Reuters ISI Web of Knowledge is an extremely valuable endeavor, as it will serve to make available to the geoscience and planetary science community a broader perspective on related subjects. I support the Journal's application wholeheartedly and urge its approval.

Yours sincerely,

Kuo-Yen Wei
Minister of Environment Protection Administration, Taiwan (Republic of China)
Professor, Department of Geosciences, National Taiwan University

Vietnam National University (VNU) - Hanoi University of Science
Faculty of Hydrology, Meteorology and Oceanography

Thanh NGO-DUC, Ph.D.
Department of Meteorology
334 Nguyen Trai, Thanh Xuan, Hanoi, Vietnam
Email: ngoducthanh@vnu.edu.vn Tel: (84)918879212

Hanoi, 07 November 2014

RECOMMENDATION LETTER for

the Journal Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)

To whom it may concern,

It is my pleasure to write this letter of recommendation in support of the Journal's application to include its contents in the Thomson Reuters ISI Web of Knowledge.

As described in its aims and scope, the Journal Progress in Earth and Planetary Science is devoted to original articles and reviews in the research fields of space and planetary sciences, atmospheric and hydrospheric sciences, human geosciences, solid earth sciences, and biogeosciences. PEPS follows publishing standards and serves as a platform for the publication of high-quality research articles. The past records show very encouraging results that although only six months old, three articles published by PEPS are already marked as Highly Accessed by SpringerOpen.

In my opinion, PEPS meets the scientific community's needs. The topics of PEPS cover a great variety of issues and have not been yet covered by indexed journals. Therefore, I strongly recommend listing PEPS in the Thomson Reuters ISI Web of Knowledge.

I would be happy to answer any further questions you may have.

Respectfully,

Thanh NGO-DUC

Letter of Recommendation for the journal Progress in Earth and Planetary Science.

To whom it may concern,

As a frequent reader of SpringerOpen, I'm very impressed with the recently-launched e-journal published on SpringerOpen: Progress in Earth and Planetary Science (PEPS) by the Japan Geoscience Union (JpGU). Only six months into publication, PEPS has already published 20 articles, 3 of which are flagged "Highly Accessed" and one made it to the list of 100 most-viewed articles, ahead of many thousands of papers published on SpringerOpen every month. However, when it comes to the quick growth and fledging success of PEPS, top-notch quality of the articles is not the only factor.

Always stay true to its mission to enhance collaboration and progress among the scientific community of Earth and Planetary Science, JpGU was visionary enough to realize the need of a platform to strengthen communication and mutual understanding to get the important and relevant messages across at an international level. And so, the objective of PEPS has been clear from day one.

PEPS covers a wider spectrum of fields than the usual specialist journals, including space and planetary sciences, atmospheric and hydrospheric sciences, human geosciences, solid earth sciences, and biogeosciences. Apart from excellent original research articles, comprehensive review ones recommended by active scientists are particularly helpful for young researchers and those new in the field to learn about the latest topics and issues in earth and planetary science. Another selling point of PEPS lies in its speedy, user-friendly publication process together with an efficient, thorough peer review process. Last, but not least, flexible online publication on PEPS enables authors to publish large databases, large numbers of color illustrations and moving pictures and display data in a form that can be read directly by other software packages, allowing readers to manipulate the data for themselves and to create all relevant links.

With all the above-mentioned reasons, I strongly believe PEPs would become one of the leading international geosciences and planetary science journals in a near future. And so I urge the approval of PEPS being included on the Web of Science of the prestigious Thomas Reuters as it will definitely bring valuable information and broader perspective on the subject to the international scientific community.

Vietnam National Satellite Center (VNSC) is a research center operating under Vietnam Academy of Science and Technology (VAST), responsible for performing national duties and implementing international cooperation projects related to space technology and applications. At the same time, VNSC aims to develop highly-skilled researchers and engineers for the space industry. Another important function of VNSC is to implement and manage the Vietnam Space Center project. And with such a specialized scope of

• Add: 18 Hoang Quoc Viet str, Cau Giay, Ha Noi • Website: http://vnsc.org.vn • Tel: 84-4-37917675 • Fax: 84-4-37627205

work, we at VNSC would like to express our interest in contributing top-quality articles to PEPS as well as Thomas Reuters as the contents covered on both PEPS and Thomas Reuters are relevant to the subject areas our young researchers and engineers are looking into.

Yours faithfully,

Dr. Pham Anh Tuan

• Add: 18 Hoang Quoc Viet str, Cau Giay, Ha Noi • Website: http://vnsc.org.vn • Tel: 84-4-37917675 • Fax: 84-4-37627205

VIETNAM ACADEMY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY
VIETNAM NATIONAL SATELLITE CENTER

Letter of Recommendation for the journal Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)

To whom it may concern,

Since the day I found out about the e-journal: Progress in Earth and Planetary Science (PEPS) newly launched by Japan Geoscience Union (JpGU) and featured on SpringerOpen, it has become one of my favourite e-journals to read and follow.

Not only does PEPS cover a very wide scope of subjects including space and planetary sciences, atmospheric and hydrospheric sciences, human geosciences, solid earth sciences, and biogeosciences, the quality of its articles is something that really makes PEPS stand out. And this is proven by a fascinating fact: within only six months, three of PEPS articles have been flagged "Highly Accessed" and one already made it to the list of 100 most-viewed papers on SpringerOpen where many thousand articles are published each month.

In my humble opinion, PEPS would soon become a significant e-journal in the field of Earth and Planetary Science because the in-depth information shared and valuable messages conveyed in top-quality original research articles would play an important role in strengthening communication and collaboration within the international community of earth & planetary science. Apart from that, comprehensive review articles recommended by active scientists would help young researchers and those new in the field be informed and learn about the latest topics and issues in earth and planetary science.

What I've also noticed about PEPS is the excellent publication and review service it has to offer. Flexible publication process on PEPS enables authors to publish large databases, large numbers of color illustrations and moving pictures, at the same time, display data in a form that can be read directly by other software packages, allowing readers to manipulate the data for themselves.

And so, with all the afore-mentioned reasons, I would strongly recommend PEPS to be included in the Web of Science of the renowned Thomas Reuters as this will bring great value to both research readers of PEPS and Thomas Reuters alike. I have recommended Thomas Reuters and PEPS to my colleagues and we are more than happy to contribute papers to both platforms in a near future.

Yours faithfully,

VIỆN HÀN LÂM KHOA HỌC VÀ CÔNG NGHỆ VIỆT NAM
TRUNG TÂM VỆ TINH QUỐC GIA

Vu Viet Phuong
Vice Director
Vietnam National Satellite Center, Vietnam Academy of Science and Technology.

Republic of the Philippines
Department of Science and Technology
PHILIPPINE COUNCIL FOR INDUSTRY, ENERGY AND EMERGING TECHNOLOGY RESEARCH AND DEVELOPMENT (PCIEERD)

November 6, 2014

Publisher Relations Department
Thomson Reuters
3 Times Square
New York, NY 10036
USA

Dear Sir/Madam,

I respectfully recommend the inclusion of the new journal, Progress in Earth and Planetary Science (PEPS), in the Thomson Reuters the ISI Web of Science.

Launched by the Japan Geoscience Union in April 2014 in partnership with Springer, PEPS is an international peer-reviewed open access e-journal. Young researchers and active scientists will benefit from a platform such as PEPS which covers space and planetary sciences, atmospheric and hydrospheric sciences, human geosciences, solid earth sciences and biogeosciences. The editors of PEPS come from more than 50 institutions all over the world. In the last six months it has produced several highly-accessed papers.

I believe indexing PEPS in the Thomson Reuters ISI Web of Science is an important undertaking as it will serve to make available to multi-disciplinary researchers an integrative perspective to earth and planetary science.

I would be happy to answer any further questions you or your colleagues may have.

Sincerely yours,

ROWENA CRISTINA L. GUEVARA, PH.D.
Executive Director

4th and 5th Level Science Heritage Bldg., Science Community Complex, Gen. Santos Avenue, Bicutan, Taguig City 1631
Tel. Nos.: 837-2926; 837-2935; 837-6154; 837-7516; 837-7522; 837-2071 to 82 locs. 2100-2109; 2120- 2121
Fax: (632) 837-6154

JpGU2015 採択セッション一覧 全192件 国際セッション(★)60件

(参考:過去の実績)	2014	2013	2012	2011
セッション合計	193	180	177	174
国際セッション	43	42	41	41

ユニオンセッション 【U】 7件 ★国際:2件		
U-01	木村 学	★Geoscience Ahead
U-02	藤本 正樹	★Japanese community activities stimulated by NASA space missions
U-03	川幡 穂高	日本地球惑星科学連合と学術出版の将来
U-04	鈴木 庸平	地球惑星ナノフロンティア開拓
U-05	氷見山 幸夫	Future Earth – 持続可能な地球へ向けた統合的研究
U-06	松見 豊	宇宙・太陽から地球表層までのシームレスな科学の新展開
U-07	田中 賢治	連合は環境・災害にどう向き合っていくのか?
パブリックセッション 【O】 5件		
O-01	渡辺 真人	ジオパークへ行こう
O-02	原 辰彦	地球・惑星科学トップセミナー
O-03	原 辰彦	高校生によるポスター発表
O-04	坂野井 和代	研究者の多様なキャリア形成を考える
O-05	宮嶋 敏	Future Earth構想と地学教育および地理教育との連携を考える
宇宙惑星科学 【P】 23件 ★国際:12件		
P-PS01	木村 淳	★Outer Solar System Exploration Today, and Tomorrow
P-PS02	Cecconi Baptiste	★Enabling Access to Solar and Planetary Resources through the Virtual Observatory
P-PS03	Barkin Yury	★Rotation, inner dynamics and variations of natural processes on the Earth, the Moon and Mars.
P-PS04	佐々木 晶	★宇宙惑星科学における国際協力
P-PS05	佐藤 毅彦	★Mars
P-PS21	黒澤 耕介	惑星科学
P-PS22	伊藤 正一	太陽系における惑星物質の形成と進化
P-PS23	長岡 央	月の科学と探査
P-PS24	橘 省吾	宇宙における物質の形成と進化
P-EM06	Liu Huixin	★地球大気の中間圏・熱圏・電離圏結合
P-EM07	片岡 龍峰	★宇宙天気・宇宙気候・VarSITI
P-EM08	Summers Danny	★内部磁気圏研究の新たな展開
P-EM09	中野 慎也	★Dynamics in magnetosphere and ionosphere
P-EM10	山本 衛	★太陽地球系結合過程の研究基盤形成
P-EM11	齊藤 昭則	★ISSからの中層・超高層大気観測の最前線
P-EM12	DMITRIEV ALEXEI	★Ionospheric and thermospheric disturbances during recurrent magnetic storms
P-EM25	徳丸 宗利	太陽圏・惑星間空間
P-EM26	梅田 隆行	宇宙プラズマ理論・シミュレーション
P-EM27	大塚 雄一	大気圏・電離圏
P-EM28	三好 由純	磁気圏-電離圏ダイナミクス
P-CG30	荒川 政彦	太陽系小天体研究の新展開
P-CG31	平原 聖文	宇宙科学・探査の将来計画と関連する機器・技術の現状と展望
P-CG32	今村 剛	惑星大気圏・電磁圏
大気水圏科学 【A】 22件 ★国際:9件		
A-AS01	Sun Wenbo	★Advances in Atmospheric Remote Sensing Techniques
A-AS02	斉藤 和雄	★HPCIによる超高精度のメソスケール気象予測
A-AS03	Realini Eugenio	★Understanding extremes: high-resolution models, dense observations and the emergent role of big data
A-AS04	Schneider Niklas	★The role of salinity in Indo-Pacific ocean and climate
A-AS21	澤 庸介	大気化学
A-AS22	古本 淳一	ミクロスケール気象現象解明にむけた稠密観測・予報の新展開
A-OS23	伊藤 進一	海洋生態系モデリング
A-HW24	安原 正也	同位体水文学2015

A-HW25	安原 正也	都市域の地下水・環境地質
A-HW26	内田 洋平	水循環・水環境
A-HW27	中屋 眞司	流域の水及び物質の輸送と循環ー源流域から沿岸域までー
A-CC28	鈴木 啓助	雪氷学
A-CC29	川村 賢二	アイスコアと古環境変動
A-GE05	森 也寸志	★地質媒体における物質移動と環境評価
A-CG06	松本 淳	★Asian monsoon hydroclimate
A-CG07	山敷 庸亮	★陸域海洋相互作用-地球スケールの物質循環
A-CG08	SUPRABA INTAN	★Mountainous Catchment Storage Estimation for water resource management and flood risk reduction purposes
A-CG09	沖 理子	★最新の大気科学：衛星による地球環境観測
A-CG30	加藤 知道	陸域生態系における水・炭素・窒素などの循環に関する研究
A-CG31	竹内 望	北極域の科学
A-CG32	時長 宏樹	熱帯におけるマルチスケール大気海洋相互作用現象
A-CG33	杉本 亮	陸海相互作用ー沿岸生態系に果たす水・物質循環の役割ー
地球人間圏科学 【H】 26件　★国際：10件		
H-GG01	Rupprecht Christoph	★International comparison of landscape appreciation
H-GG21	上田 元	自然資源・環境の利用と管理
H-GM02	島津 弘	★Geomorphology
H-GM22	島津 弘	地形
H-QR23	宮内 崇裕	ヒト-環境系の時系列ダイナミクス
H-SC03	氷見山 幸夫	★地球の未来のための人間的側面研究の具体化
H-SC04	De Mulder Eduardo	★Geoscience Aspects of Underground Urban Development
H-SC05	Santiago-Fandino Vicente	★Tsunami and other Coastal Natural Hazards;is there enough information and awareness in rural and remote areas?
H-SC24	青木 賢人	人間環境と災害リスク
H-DS06	千木良 雅弘	★地すべりおよび関連現象
H-DS07	PETROVA ELENA	★Natural hazards impacts on the society, economics and technological systems
H-DS25	千木良 雅弘	湿潤変動帯の地質災害とその前兆
H-DS26	北村 有迅	海底地すべりとその関連現象
H-DS27	林 豊	津波とその予測
H-RE28	徳永 朋祥	地球温暖化防止と地学（CO2地中貯留・有効利用,地球工学）
H-TT08	早川 裕弐	★高解像度地表計測データの地球科学的活用
H-TT09	小口 高	★GIS
H-TT29	作野 裕司	環境リモートセンシング
H-TT30	近藤 昭彦	UAVが拓く新しい世界
H-TT31	中野 孝教	環境トレーサビリティー手法の新展開
H-TT32	小口 高	地理情報システム
H-TT33	近藤 康久	未来の地球環境と社会のための新しい情報基盤を構想する
H-CG10	De Mulder Eduardo	★connecting Near Earth Asteroids with the local cratering record
H-CG34	笹尾 英嗣	原子力と地球惑星科学
H-CG35	山口 直文	堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動
H-CG36	富田一横谷 香織	惑星と閉鎖生態系における生物のシステム—微生物からヒトまで
固体地球科学 【S】 62件　★国際：17件		
S-GD21	風間 卓仁	測地学一般
S-GD22	松坂 茂	GGOS（全球統合測地観測システム）
S-GD23	西島 潤	重力・ジオイド
S-SS01	鶴岡 弘	★日本における地震発生予測検証実験
S-SS02	金川 久一	★海溝型巨大地震・津波研究の最前線
S-SS24	山田 真澄	リアルタイム地震情報システムの発展と利活用
S-SS25	元木 健太郎	強震動・地震災害
S-SS26	齊藤 竜彦	地震波伝播：理論と応用
S-SS27	中島 淳一	地震予知・予測
S-SS28	吾妻 崇	活断層と古地震

S-SS29	谷川 亘	断層のレオロジーと地震の発生過程
S-SS30	安藤 亮輔	地震発生の物理・震源過程
S-SS31	太田 雄策	地殻変動
S-SS32	林 能成	地震活動
S-EM33	神田 径	電気伝導度・地殻活動電磁気学
S-EM34	望月 伸竜	地磁気・古地磁気・岩石磁気
S-IT03	芳野 極	★Structure and dynamics of Earth and Planetary deep interiors
S-IT04	大内 智博	★地球内部のレオロジー
S-IT05	田村 芳彦	★ハードロック掘削：海洋リソスフェアから島弧形成＋アルファ
S-IT06	坂巻 竜也	★初期地球 – 集積から形成まで –
S-IT07	wu jonny	★New constraints on the tectonic evolution of Northeast Asia
S-IT35	中川 貴司	地球深部ダイナミクス：プレート・マントル・核の相互作用
S-IT36	竹内 希	地球深部の能動的常時観測とシミュレーションの技術展望
S-GL37	伊藤 康人	プレート収束境界における堆積盆形成テクトニクスの新たな展望
S-GL38	岡田 誠	上総層群における下部ー中部更新統境界GSSP
S-GL39	田上 高広	地球年代学・同位体地球科学
S-GL40	山縣 毅	地域地質と構造発達史
S-RD41	実松 健造	資源地質学の新展開：鉱化流体の起源と進化
S-MP08	Ur Rehman Hafiz	★Micro- to macro-scale deformation: petrologic, mineralogic, geophysical and geochemical checkpoints
S-MP09	Madhusoodhan Satish-Kumar	★Supercontinents and Crustal Evolution
S-MP10	岡本 和明	★超高圧変成作用　–スラブ流体、深部マントルダイナミクスの解明?
S-MP42	興野 純	鉱物の物理化学
S-MP43	石井 和彦	変形岩・変成岩とテクトニクス
S-MP44	土屋 範芳	メルトー延性ー脆性岩体のダイナミクスとエネルギー・システム
S-VC11	McIntosh Iona	★Volatiles and volcanoes: the role of volatiles in determining how and when volcanoes erupt
S-VC12	青木 陽介	★Multidisciplinary volcano monitoring
S-VC45	青木 陽介	活動的火山
S-VC46	小園 誠史	火山噴火のダイナミクスと素過程
S-VC47	及川 輝樹	火山・火成活動と長期予測
S-VC48	萬年 一剛	火山防災の基礎と応用
S-VC49	藤光 康宏	火山の熱水系
S-GC50	下田 玄	固体地球化学・惑星化学
S-GC51	兵藤 博信	希ガス同位体地球惑星科学の最前線
S-TT13	三ケ田 均	★Recent Advances in Exploration Geophysics (RAEG2015)
S-TT52	楠本 成寿	空中からの地球計測とモニタリング
S-TT53	中村 洋光	地震観測・処理システム
S-TT54	山之口 勤	合成開口レーダー
S-TT55	堀 高峰	ハイパフォーマンスコンピューティングが拓く固体地球科学の未来
S-CG14	Mysen Bjorn	★Mixed volatiles in subduction zones; Physical and chemical properties and processes
S-CG15	藤縄 幸雄	★地震電磁気手法による地殻内破壊検知と地殻構造探査
S-CG16	佐野 有司	★Deep Carbon Cycle
S-CG17	Zhao Xixi	★The Alpine-Himalayan-Tibetan Plateau System and tectonic events in Asia
S-CG56	川勝 均	日本の原子力発電と地球科学：地震・火山科学の限界を踏まえて
S-CG57	選出中	地殻構造／変動帯のダイナミクス／島弧の構造・進化とダイナミクス（仮）
S-CG58	三宅 亮	岩石・鉱物・資源
S-CG59	桑野 修	地球惑星科学におけるレオロジーと破壊・摩擦の物理
S-CG60	片山 郁夫	流体と沈み込み帯のダイナミクス
S-CG61	小泉 尚嗣	地殻流体と地殻変動
S-CG62	廣瀬 仁	スロー地震
S-CG63	金尾 政紀	雪氷圏地震学 – 地球表層環境変動の新指標 –
S-CG64	沖野 郷子	海洋底地球科学
S-CG65	中原 恒	兵庫県南部地震から20年：活断層と強震動に関する研究の進展

地球生命科学 【B】 11件　★国際:3件		
B-AO01	小林 憲正	★Astrobiology: Origins, Evolution, Distribution of Life
B-BG02	Bhadury Punyasloke	★Nutrient cycling in coastal ecosystems
B-BG21	渡邉 敦	熱帯ー亜熱帯沿岸生態系における物質循環
B-GM22	砂村 倫成	地球惑星科学と微生物生態学の接点
B-PT03	豊福 高志	★バイオミネラリゼーションと古環境指標 -生態系, 飼育, 環境復元
B-PT23	小宮 剛	地球史解読:冥王代から現代まで
B-PT24	ジェンキンズ ロバート	化学合成生態系の進化をめぐって
B-PT25	本山 功	地球生命史
B-PT26	遠藤 一佳	地球ゲノム学
B-PT27	磯崎 行雄	原生代末／顕生代生物多様性変遷:絶滅と多様化
B-CG28	白石 史人	生命-水-鉱物-大気相互作用
教育・アウトリーチ 【G】 5件　★国際:1件		
G-01	Liu Chi-Min	★Education of Earth science in tomorrow classrooms
G-02	中井 仁	防災教育ー災害を乗り越えるために私達が子ども達に教えること4
G-03	植木 岳雪	地球惑星科学のアウトリーチ
G-04	畠山 正恒	小中学校の地球惑星科学教育/高等学校の地球惑星科学教育(調整中)
G-05	畠山 正恒	学部生向けの教育
領域外・複数領域 【M】 31件　★国際:6件		
M-IS01	目代 邦康	★ジオコンサベーションと持続可能な発展
M-IS02	服部 克巳	★地震準備過程および地震前兆現象
M-IS03	和穎 朗太	★土壌学の挑戦と可能性ー地球科学・生態学・生物地球化学との接点
M-IS21	池原 実	南大洋・南極氷床が駆動する全球気候・生態系変動
M-IS22	伊賀 啓太	地球流体力学:地球惑星現象への分野横断的アプローチ
M-IS23	尾方 隆幸	ジオパーク
M-IS24	戸丸 仁	ガスハイドレートと地球環境・資源科学
M-IS25	後藤 和久	津波堆積物
M-IS26	楊 宗興	生物地球化学
M-IS27	児玉 哲哉	地震・火山等の地殻活動に伴う地圏・大気圏・電離圏電磁現象
M-IS28	多田 隆治	東アジア-北西太平洋域高解像度古気候観測網
M-IS29	芳原 容英	大気電気学
M-IS30	松岡 篤	遠洋域の進化
M-IS31	木村 勇気	結晶の成長と溶解における界面・ナノ現象
M-IS32	斎藤 実篤	地球掘削科学
M-IS33	宇佐見 和子	2011年巨大地震・津波以後の東北沖海洋科学
M-IS34	山田 和芳	古気候・古海洋変動
M-IS35	島 伸和	この星は、なぜ地球なのか？ -水の役割-
M-GI01	Bongolan Vena Pearl	★Modeling Dangerous Phenomena
M-GI36	村山 泰啓	地球惑星科学とデータ・情報活用の展望
M-GI37	豊田 英司	情報地球惑星科学と大量データ処理
M-AG38	北 和之	福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態
M-SD39	片山 直美	宇宙食と宇宙農業
M-TT05	小司 禎教	★統合地球観測システムとしてのGPS/GNSSの新展開
M-TT06	高橋 幸弘	★国際協力による超小型衛星開発・利用の展開
M-TT40	桑谷 立	地球惑星科学データ解析の新展開:データ駆動型アプローチ
M-TT41	山本 真行	インフラサウンド及び関連波動が繋ぐ多圏融合地球物理学の新描像
M-TT42	小荒井 衛	地球惑星科学における地図・空間表現
M-TT43	天野 一男	ソーシャルメディアと地球惑星科学
M-TT44	平田 岳史	地球化学の最前線: 未来の地球化学を展望して
M-ZZ45	矢島 道子	地球科学の科学史・科学哲学・科学技術社会論

e-Poster 試験的実施について

この数年 EGU や AGU では e-Poster の導入が進んでいます．これらは，ポスター会場にモニター端末が設置され pdf などの資料を自由に閲覧でき，必要に応じて発表者に質問のできるものです． AGU は学会開催期間後もアクセスできるよう配慮されています．
一方，JpGU は国際化，特に将来的にはアジア意識した参加者の増加を目指しています．その場合問題になるのが渡航費用を含む経済的な面です．現在は日本側で旅費を負担して招聘するケースが多いと思いますが，この方法では呼べる参加者の数に限界があり，またアジア各国の自由で主体的な参加を促すのは難しいと考えます．

そこで，ひとつの取組みとして，2015 年大会では，日本に渡航せずに参加できる e-Poster を以下のような形態で試験的に実施したいと思います．

★実施概要，参加条件は以下の通りです．

国際セッションで海外から参加予定の発表者が対象となります．

発表端末はポスター会場内に３セット用意する予定です．そのため，ご協力をお申し出いただいた場合でも，日程，人数，参加国等のバランスから，通常発表をお願いする場合もあります．

ポスターデータは PDF にて事前に提出していただきます．

コアタイムには Skype 等で会場とのリアルタイムのディスカッションに参加していただきます．

提出していただいたポスターデータは責任を持って掲示しますが，Skype 等でのディスカッションについては，回線状況や機器のトラブルにより，接続ができない可能性も考えられますので，実験的実施であることをご了承いただいた上でご協力ください．

e-Poster にてご参加いただいた方にも Certificate を発行し，正式な参加・発表として証明いたします．

2015 年大会の e-Poster 発表での参加登録費は，実験段階のため無料です．投稿料は通常通り発生します．2016 年大会以降は今回の実験結果を踏まえ，途上国からの参加者を想定した低価格の参加費を設定していく予定です．

以上の条件で，実施にご興味をお持ちのコンビーナの方は連合事務局(office@jpgu.org）までご連絡ください．
発表者の方からの個別のお申込みは受付けられませんので，e-Poster をご希望の発表者の方は一度コンビーナまでご相談ください．

平成 26 年 11 月 20 日

公益社団法人 日本地球惑星科学連合　事務局　御中

東京ベイ幕張ホール
千葉市美浜区ひび野 2-3 〒261-0021
TEL (043)296-1112　FAX (043)296-1512
担当者　　松沢　浩之

宴会場仮予約確認書

拝啓、平素は格別のお引立てを賜り、厚くお礼申し上げます。
この度お問合せいただきました 2016 年(H28 年)会場につきまして、
以下のとおり会場仮予約をさせていただきます。

敬具

記

1. お申込者

(会社名) 公益社団法人 日本地球惑星科学連合　事務局	(住所) 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階
(電話) 03-6914-2080	(お申込者名) 事務局長　谷上 美穂子　様
(お席名) 日本地球惑星科学連合大会	

2. 内容

日時	時間	会場	形式
平成 28 年 5 月 21 日(土)	前宴席終了後	幕張ホール 1ＳＰ×7 会場	会場設営
平成 28 年 5 月 22 日(日)	9:00～18:00	幕張ホール 1ＳＰ×7 会場	分科会(7 会場)
平成 28 年 5 月 23 日(月)	9:00～18:00	幕張ホール 1ＳＰ×7 会場	分科会(7 会場)
平成 28 年 5 月 24 日(火)	9:00～18:00	幕張ホール 1ＳＰ×7 会場	分科会(7 会場)

※宴会場ご利用については「宴会場ご利用についてのお願い」(別紙) を
定めておりますので、あらかじめご了承くださいますようお願い申し上げます。

3.ご署名欄

(　　)上記予約を正式にお願いします　／(　　)仮予約を取り消してください

年　　月　　日(　　)　担当;

(TEL　　)

仮予約期限　平成 27 年 1 月 30 日(金)

以上

平成 26 年 11 月 20 日

公益社団法人 日本地球惑星科学連合　事務局　御中

東京ベイ幕張ホール
千葉市美浜区ひび野 2-3 〒261-0021
TEL (043)296-1112　FAX (043)296-1512
担当者　　松沢　浩之

宴会場仮予約確認書

拝啓、平素は格別のお引立てを賜り、厚くお礼申し上げます。
この度お問合せいただきました 2017 年(H29 年)会場につきまして、
以下のとおり会場仮予約をさせていただきます。

敬具

記

1. お申込者

(会社名) 公益社団法人 日本地球惑星科学連合　事務局	(住所) 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階
(電話) 03-6914-2080	(お申込者名) 事務局長　谷上 美穂子　様
(お席名) 日本地球惑星科学連合大会	

2. 内容

日時	時間	会場	形式
平成 29 年 5 月 27 日(土)	前宴席終了後	幕張ホール 1ＳＰ×9 会場	会場設営
平成 29 年 5 月 28 日(日)	9:00～18:00	幕張ホール 1ＳＰ×9 会場	分科会(9 会場)
平成 29 年 5 月 29 日(月)	9:00～18:00	幕張ホール 1ＳＰ×9 会場	分科会(9 会場)
平成 29 年 5 月 30 日(火)	9:00～18:00	幕張ホール 1ＳＰ×9 会場	分科会(9 会場)
平成 29 年 5 月 31 日(水)	9:00～18:00	幕張ホール 1ＳＰ×9 会場	分科会(9 会場)
平成 29 年 6 月 1 日(木)	9:00～18:00	幕張ホール 1ＳＰ×9 会場	分科会(9 会場)

※宴会場ご利用については「宴会場ご利用についてのお願い」(別紙) を
定めておりますので、あらかじめご了承くださいますようお願い申し上げます。

3.ご署名欄

(　　)上記予約を正式にお願いします　／(　　)仮予約を取り消してください
年　　月　　日(　　)　担当;
(TEL　　)
仮予約期限　平成 27 年 1 月 30 日(金)

以上

委員会・セクション報告　顕彰関連活動報告

2015 年度　公益社団法人日本地球惑星科学連合フェロー募集について

(連合ホームページより)

公益社団法人日本地球惑星科学連合は 2015 年度公益社団法人日本地球惑星科学連合フェロー（以下フェロー）の候補者を募集いたします.

日本地球惑星科学連合フェロー制度は，地球惑星科学において顕著な功績を挙げた方を高く評価し，名誉あるフェローとして処遇することを目的として設置されたものです.
フェローは推薦者により推薦され，会長の諮問委員会であるフェロー審査委員会において推挙された方々の中から，理事会において承認された方々とします．フェローには年齢制限，人数の制限は設けません.

【JpGU フェローの満たすべき要件】
・地球惑星科学研究領域におけるパラダイムシフトやブレークスルーもしくは大きな発見などを通じて，日本の地球惑星科学の発展に著しい貢献をした方

【JpGU フェロー被推薦者】
会員・非会員を問いません．ただし，以下の者は推薦の対象となりません.
・JpGU の現職理事・監事・セクションプレジデント
・フェロー審査委員

【決められた年度のフェロー選出スケジュール】
前年度の 10-12 月　　推薦期間
前年度の 1-3 月　　JpGU フェロー審査委員会による審査期間
当該年度の 3 月理事会　JpGU 理事会による承認
当該年度の連合大会　　JpGU フェロー顕彰式

【推薦の様式】
JpGU フェローを推薦する方（以下、主たる推薦者とする）は以下の書面をもって JpGU 会長に推薦をしてください.
書式は特段定めません.

・被推薦者の氏名（和文および英文表記），連絡先（所属機関，役職（引退後は，これに代わる肩書き）住所，電話番号，メールアドレス）
・被推薦者の履歴（専門分野，研究歴，受賞歴，大学・研究機関・学協会等に於ける貢献）
・主要な論文あるいは特許等，あわせて 5 編のリストおよびその別刷り（コピー可）
・全論文リスト
・推薦理由書（A4 で 2 ページ以内，日本語あるいは英語)
・主な業績（400 文字以内，日本語あるいは英語）
・一行推薦理由（Short citation，日本語および英語）
　日本語　フォーマット：「(専門分野、領域等への）顕著な貢献により」、文字数：50～80 文字程度
　英語　フォーマット：「for outstanding contributions to（専門分野、領域等)」、文字数：半角 120～250 文字程度」
　（参照：2014 年度フェロー紹介ページ http://www.jpgu.org/news/fellowlist.html

http://www.jpgu.org/news/japan-geoscience-union-fellows-2014.html）
・３通のサポートレター（推薦者以外３名による．A4 で１ページ，日本語あるいは英語，連名を可とする）
・主たる推薦者１名の氏名と連絡先（所属機関，住所，電話番号，メールアドレスなど）

【推薦方法】
・提出はワードファイル、およびその PDF 版を当該年度の推薦期間内に連合フェロー担当事務局（jpgu.fellow (at) icloud.com)にメールにて送付してください. 但し論文別刷りは PDF のみで結構です.
・ワードファイル、PDF ファイルはそれぞれ 1 ファイルにまとめてください.
・ファイルの大きさは 25Mbyte までにしてください.
・メールの件名は”JpGU フェロー推薦書（候補者氏名）”としてください.
　これ以外の件名で送信した場合、spam メールとして処理されるなど、正しく処理できない恐れがあります.
　（受領の確認メールが一週間以内に届かない場合は電話にてお問い合わせ下さい.）

【JpGU フェローの表彰】
・JpGU 連合大会開催時に JpGU フェロー表彰式を開催し，メダル等を進呈します.

【JpGU フェロー審査委員会】
・JpGU フェロー審査委員は理事会の議を経て会長が指名します.
・委員は 5 名とし，任期を 2 年とします．ただし，半数（2 ないし 3 名）を一年毎に改選することとし，最初の委員のうち 2 名は 3 年の任期とします.
・委員は JpGU 会員の中からサイエンスセクションの配分を考慮して選びます.
・委員長は JpGU 会長が指名します.
・委員名は，委員が任期を終え，改選された時点で公表するものとします.

★推薦書送付期限：2014 年 12 月 31 日（水）　必着

★推薦状送付先アドレス：jpgu.fellow（at）icloud.com

★フェロー制度に関するお問い合わせ：担当理事　中村(050-33623936)

中村正人

2014 年 10 月 6 日（月）

日本地球惑星科学連合　2014 年度地球惑星科学振興西田賞審査委員会　第 1 回会議　議事録

・委員の氏名の公開に関わる注意書き
地球惑星科学振興西田賞審査委員会設置規則第 6 条に基づき,受賞者決定時点まで委員は非公開とする.したがって本議事録においても公開時に委員名を削除する.

１．開催月日：11 月 25 日(火)13：30 から 15：00
２．開催場所：連合事務局地下会議室（〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル B1）
３．出席委員：委員 9 名出席（うち 2 名はスカイプによる出席）
４．出席オブザーバー：担当理事　中村正人　成瀬元

５．議事
開始予定時刻となったため、仮議長として中村理事が議長席に着き、会議の開始を宣言した．スカイプで出席の委員２名が会議に参加できることを確認した．以下議事に入った.

議事１．自己紹介
委員の自己紹介を行った．欠席した委員については，仮議長中村理事より紹介があった.

議事２．委員長，副委員長の選出
委員長の互選を行った．委員より，委員長の推薦があった．満場一致でこれを承認した．選出された委員長が副委員長を指名し，これについても満場一致で承認した.
以降，選出された委員長が仮議長中村理事に代わり議長となった.

議事３．審査の概要説明
議長の要請により，中村理事が地球惑星科学振興西田賞の概要，これまでの経緯，今後のスケジュールについて説明した.
12 月 15 日の推薦締切以降に次回会議を開催し，応募状況の確認を行う．1 月，2 月にそれぞれ会議を開催し，審査を行う予定とする.

議事４．その他（審査の方法等について）
推薦募集および審査の方法や手順，考え方について議論した．まず各委員の賞に対する考え方や方向性などを説明し，意見交換を行った．次に賞や審査について自由な討論を行った.
主な議論は以下の通りである.
・推薦募集の方法や必要書類について
　応募書類や応募資格など，いくつかの詳細な点を確認した．関連規則やホームページ上での説明について，今後に向けた必要な文言の修正案を議論し，よりわかりやすい文言への改訂を合意した.
・書類不備等について
　推薦書に書類不備等があった場合，即欠格とするのではなく，修正し再提出することを促すほうが良

い

・論文の引用回数が審査の基準になるのではないか

引用回数の多寡だけで機械的に審査することのないよう注意しながら，資料としては用意する必要がある．

・必要書類のうち，主要論文について

現在は 5 編の主要論文としているが，10 編にすべきではないかという提案があった．今後継続して検討する．また，筆頭著者(first author)や責任著者(corresponding author)である必要があるかどうかも今後継続して検討してする．

・女性候補者について

女性候補者については出産，育児期間に研究を離れることが実情として多いため，審査の公平性には注意が必要であるという意見があった．

・審査の進め方について

委員の選出元セクションも考慮し，委員ごとに担当する候補者を決め，それぞれ精査する．ただし複数領域にまたがる業績のある候補者については複数セクションの委員で精査するなどの対応が必要となる．また，他分野の候補者についても関与しないのではなく，全体として審査する必要があるが，詳細は今後継続して検討する．

また選考方法の詳細については、応募書類を精査する過程で、再び議論する必要があるという意見があった．

・セクション配分について

地球惑星科学振興西田賞規則第 2 条 2 にもとづき，受賞者の配分においてはセクションの規模を考慮する．規模とは当該セクションを主たるセクションとして登録する会員数のことである．ただし候補者数や候補者の適格性について大きな偏りがあった場合については，今後継続して検討する．単一セクションに該当しない候補者についても考慮が必要となる．

議事 5．今後の会議開催について

次回以降の会議開催日程は後日メール等で検討して決定することとした．

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ，閉会を宣言した．（午後 3 時 00 分）

以上

日本地球惑星科学連合　2014 年度地球惑星科学振興西田賞審査委員会　第 1 回会議

地球惑星科学振興西田賞について

(連合ホームページより)

この度公益社団法人日本地球惑星科学連合は「地球惑星科学振興西田賞」を創設し，国際的に評価を得ている優れた45歳未満の中堅研究者を表彰することにいたしました.賞の名称は西田篤弘会員(フェロー)のご提案と寄付金により賞を維持することに由来します．ここでは、この賞の概要についてご説明します。

1. 受賞者の条件

地球惑星科学の分野において新しい発想によって優れた研究成果を挙げ、国際的に評価を得ている方で審査年度当初（4 月 1 日）に 45 歳未満の研究者が受賞対象者となります。原則として個人ですが、2 名までの連名を認める場合があります。地球惑星科学連合会員・非会員、国籍、性別は問いません。

2. 受賞者数

1 年おき(西暦で偶数年)に 10 件以内を選ぶ事とし、2014 年度から開始します。以降隔年で受賞者を決定します。原則として各サイエンスセクションに該当する分野において最低 1 件を選ぶ事とし、配分においてはサイエンスセクションの規模を考慮します。

3. 推薦

i. 選考対象は推薦によるものとし、正会員による他薦または自薦とします。ただし他薦の場合には本人に受賞の意思があることを事前に確認することが必要です。

ii. 推薦に必要な書類は以下の通りです。全て日本語か英語にて作成して下さい。(両言語の混在は可とします。9 月 22 日追記)

· 候補者の名前、連絡先（所属機関、住所、電話番号、メールアドレスなど）
· 候補者の経歴、受賞歴
· 全査読付き論文リストおよび主要な論文 5 編の別刷り
· 推薦理由書（Ａ４で 6 ページ以内）
· 自薦の場合は 2 通の推薦書、他薦の場合は推薦者以外の 2 名のサポートレター
· 他薦の場合は推薦者の氏名と連絡先（住所、電話番号、メールアドレスなど）

iii. 提出はワードファイル、およびその PDF 版を当該年度の推薦期間内に地球惑星科学振興西田賞事務局(jpgu_nishidasho@icloud.com)にメールにて送付してください。但し論文別刷りは PDF のみで結構です。
（受領の確認メールが一週間以内に届かない場合は電話にてお問い合わせ下さい。）

4. 審査委員会

i. 各セクションから選出された委員で構成します。任期は選考を行う年度の 10 月から 3 月までとし最初の審査開始から最大 4 年まで再任を認めます。

ii. 委員は受賞候補者と同様の資格を満たし、当該分野の現状に通じた経験豊かな会員を各サイエンス

セクションから複数名（最低1名）出していただきます。分野毎の人数はサイエンスセクションの規模を考慮し、全体で15名程度といたします。

iii. 委員は当該年度の9月～10月の理事会で承認し、委員長は互選といたします。

iv. 委員の名簿は審査段階では非公開とし、受賞者発表時に公開する事と致します。

5. スケジュール（以下は2014年度、以降開催年度毎に設定します）

i. 2014年9月20日 ～ 12月15日：推薦期間

2014年9月~10月: 審査委員を理事会で決定（委員任期2014年10月 ～ 2015年3月）

ii. 2014年12月16日 ～ 3月理事会前日まで：審査期間

iii. 2015年3月理事会：審査委員長は結果を理事会へ報告、報告後すみやかに2014年度の受賞者を受賞者をホームページなどで発表します

iv. 2014年度受賞者を2015年の連合大会で表彰いたします。

v. 2014年度受賞者は2016年の連合大会で記念講演会を行って頂きます。

6. 顕彰方法

i. 賞状を贈ります

ii. 副賞として受賞者に1件あたり50万円を贈ります。

賞の規則及び審査委員会規則は以下に掲示されています。
http://www.jpgu.org/soshiki/kisoku/nishidashou.pdf
http://www.jpgu.org/soshiki/kisoku/nishidashou_shinsa.pdf

この賞についてのご質問は jpgu_nishidasho@icloud.com にお願い致します。

以上

平成26年9月18日
顕彰制度担当理事　中村正人

平成２７年度　第４２回「環境賞」募集要項

１）表彰の対象

環境保全に関する調査、研究、開発、実践活動で画期的な成果を挙げ、または成果が期待されるもの、例えば

・ 大気汚染、水質汚濁等いわゆる典型７公害及び廃棄物（除く、放射性廃棄物）などに関するもの
・環境汚染のメカニズム、環境破壊の予知、予測及び環境影響評価に関するもの
・ 環境の質の向上及び維持に関するもの
・ 環境の管理に関するもの
・ 自然環境保全に関するもの
・ 地球環境保全に関するもの、等

２）受賞候補者　　個人、法人またはグループとする

３）賞

①環境大臣賞

優秀賞のうち、とくに優秀と認められるものに、環境大臣賞の楯が授与される

②環境賞

イ）優秀賞

表彰状の他、盾並びに１００万円の副賞を贈呈する

ロ）優良賞

表彰状の他、盾並びに５０万円の副賞を贈呈する

４）審査結果の発表　平成２７年５月中旬

日刊工業新聞紙上および日立環境財団ホームページにて発表する

５）表彰の時期　　平成２７年６月の環境月間に表彰式を行う

６）受賞内容の紹介　日立環境財団機関誌「季刊　環境研究」に論文を掲載する

７）応募の方法　　公募によるものとし、関係学会、団体等の推薦または本人よりの申請による

８）提出書類　　推薦者又は申請者は所定用紙に内容を記載して提出するものとする

９）応募受付期間　　平成２６年１０月１日（水）～１２月１９日（金）※締切日必着

１０）提出先　　公益財団法人　日立環境財団

〒100-8220

東京都千代田区丸の内一丁目６番１号　丸の内センタービル１２階

ＴＥＬ　０３-５２２１-６６７７　ＦＡＸ　０３-５２２１-６６８０

平成２７年度（第４２回）環境賞受賞候補者推薦・申請書

１．受賞候補テーマ（商品名の使用は不可）

オホーツク海の越境環境保全に向けた多国間学術ネットワーク構築と運営

該当する分野を選んでください。

□大気・水　□廃棄・リサイクル　■環境保全　□地球環境　□影響評価　□エネルギー

２．受賞候補者（申請者）

●個人の場合の記入事項：[1.氏名][2.職業/所属機関]

●企業/団体の場合の記入事項：[1.企業/団体の名称][2.プロジェクト代表者名][3.部署・役職][4.ホームページＵＲＬ]

1. アムール・オホーツクコンソーシアム
2. 白岩孝行
3. 北海道大学　低温科学研究所　環オホーツク観測研究センター・准教授
4. http://amurokhotsk.com/

３．推薦者（推薦者がいる場合は記入してください）

平成　　年　　月　　日

公益財団法人日立環境財団
理事長　小豆畑　茂　殿

上記のものを環境賞受賞候補者として推薦します。

機関（組織）名
代表者職名・氏名　㊞
機関（組織）所在地

４．事務上の連絡先

所属機関名	北海道大学　低温科学研究所
部署・役職・氏名	環オホーツク観測研究センター・准教授・白岩孝行
郵便番号・住所	〒060-0819　北海道札幌市北区北19条西8丁目
電話/FAX	011-706-7664/011-706-7142
E-mail	shiraiwa@lowtem.hokudai.ac.jp

註　（１）本申請書を３部提出して下さい。
（２）参考書類を添付する場合は各３部提出して下さい。
（３）提出書類は原則として返却致しません。

５．受賞候補テーマの概要を以下項目について下欄に記入してください。(A4 用紙 1 ページ以内)

(1)実績の要約（開発した技術・行った実践活動・調査等の目的と内容を簡潔に紹介してください。）

オホーツク海の海洋環境保全と持続的な海洋資源利用を進めるべく、2009 年に日中露の研究者からなる多国間学術ネットワークとしてのアムール・オホーツクコンソーシアムを設立した。2010 年にはモンゴルの研究者も参画し、四カ国の研究者からなる組織となった。2010 年と 2011 年に札幌、2013 年にロシア・ウラジオストックにおいて国際会議を開催し、オホーツク海に隣接し、河川流出を通じてオホーツク海に多大な影響を与えるアムール川流域とオホーツク海の環境に対する現状についての情報を共有すると共に、緊急に取り組むべき環境問題について議論した。2012 年には、史上初めての試みとして、日中露モ四カ国の研究者によるアムール川の国際共同河川観測を実施した。また、船上において、各国がそれぞれ進める河川水質観測の現状についての情報を交換した。これらの活動は 3 冊の英文報告書にまとめて出版された。上記の 5 年間の活動に基づき、2014 年 8 月に「オホーツク海の越境環境保全に向けた認識共同体の構築と実践」と題する政策提言書（和文）を公表した。上記の活動の一方、日露両政府が進める「日露隣接地域生態系協力プログラム」（外務省・環境省）に関わり、専門家委員会を通じて、オホーツク海の保全に日露両国で取り組む必要性を認識させると共に、オホーツク海の海洋環境保全とアムール川流域の環境保全が不可分であることを両国の専門家に訴えた。また、国連欧州経済委員会のヘルシンキ条約会議にオブザーバーとして参加し、アムール川流域の環境保全の必要性を国際社会に訴えた。

(2)効果（得られた効果について説明してください。）

水産資源を除き、これまで環境情報を共有することが困難であった日本とロシアの間に、定期的に環境情報を共有する場を構築することによって、オホーツク海の海氷減少、海洋汚染、基礎生産の変化などの環境情報が飛躍的に我が国にもたらされることになった。また、本枠組みに中国とモンゴルを加えることにより、オホーツク海に大きな影響を与えるアムール川流域の環境に関する情報ももたらされるようになった。オホーツク海の環境保全・持続的な利用には、上流域のアムール川流域の環境保全が必須であるという陸・海連環の考え方を、日本、ロシア、中国、モンゴルの研究者、行政機関、そして市民に認識させるきっかけとなった。これらの情報は、後述するアムール・オホーツクコンソーシアムが出版した三冊の英文報告書、和文報告書、啓発冊子、一般書籍、TV・新聞報道などのメディアによって、広く社会に公表され、オホーツク海の保全にはアムール川流域の保全が欠かせないという認識が社会に広がった。

(3)環境保全への貢献度（環境保全対策にどのように貢献できるか説明してください。）

オホーツク海には半時計回りの海流（東樺太海流）が存在し、アムール川流域起源の物質やサハリン東岸の油田地帯から発生する様々な汚染物質が北海道沿岸に輸送される宿命にある。それゆえ、水産資源に恵まれ、知床世界自然遺産に代表される生物多様性の高いオホーツク海の海洋環境を予防原則に則って保全するためには、日本と周辺国が連携して取り組む必要がある。しかし、これまで、そのような仕組みはどのようなレベルでも存在しなかった。我々はコンソーシアムの活動を通じて、関係国の研究者、行政機関、市民に意識改革を促している。そして、オホーツク海の環境を保全するための恒久的な枠組みができる、あるいは自ら作ることを志している。

(4)独創性、将来性、有効性、経済性について特筆すべき点があれば記述してください。

オホーツク海の環境保全を周辺各国の研究者と連携しつつ、自然科学のみでなく、社会科学を巻き込んで包括的な立場から議論するような仕組みはこれまで存在しなかった。将来の有望なエネルギー供給地として位置づけられつつも、まだ壊滅的な環境悪化に陥っていないオホーツク海とその周辺陸域を日露中モ四カ国の連携で保全しつつ利用していこうという取り組みは、北海道の環境と経済的自立にとって重要な取り組みと考える。なぜならば、日本の優れた環境技術を、周辺国に導入できる可能性が高く、我が国の経済への貢献も期待できるからである。

（以下Ａ４用紙２ページ以内に、６および７の内容をまとめてください。）

６．受賞候補テーマに関係ある過去の業績、発表論文名、特許、ウェブサイト等

【アムール・オホーツクコンソーシアムの出版物】

Amur-Okhotsk Consortium (2012) Proceedings of the 2nd International Meeting of Amur-Okhotsk Consortium 2011 -Towards the sharing of environmental data in the Pan Okhotsk region, T. Shiraiwa (ed.), 222p. (http://amurokhotsk.com/wp-content/uploads/2012/04/Proceedings.pdf)

Amur-Okhotsk Consortium (2012) Report of the Joint Research Cruise in the Amur River 2012, T. Shiraiwa (ed.), 115p. (http://amurokhotsk.com/wp-content/uploads/2013/03/amurcruisereport2012.pdf)

Amur-Okhotsk Consortium (2014) Proceedings of the 3rd International Meeting of Amur-Okhotsk Consortium 2013, T. Shiraiwa (ed.),119p. (http://amurokhotsk.com/wp-content/uploads/2014/08/3rd-AOC-proceedings-2.pdf)

アムール・オホーツクコンソーシアム (2014) 「三井物産環境基金 2011-2013 最終報告書　オホーツク海の越境環境保全に向けた認識共同体の構築と実践」, (白岩孝行他　編), 48p. (http://amurokhotsk.com/wp-content/uploads/2014/09/mitsui-final-report-2014a.pdf)

【査読付論文】

Shiraiwa, T. (accepted) A review of dissolved iron behavior with respect to land-use and land-cover in the Amur River basin and its conservation for the sustainable future of the region, Global Environmental Research.

Nishioka,J., Nakatsuka, T., Ono, K., Volkov, Yu. N., Scherbinin, A. and Shiraiwa, T. (2014) Quantitative evaluation of iron transport processes in the Sea of Okhotsk. PROGRESS IN OCEANOGRAPHY, 126, 180-193. dpi: 10.1016/j.pocean.2014.04.011

Nishioka, J., Nakatsuka, T., Watanabe, Y., Yasuda, I., Kuma, K. Ogawa, H., Ebuchi, N., Scherbinin, A., Volkov, Y., Shiraiwa,T. and Wakatsuchi, M. (2013) Intensive mixing along an island chain controls oceanic biogeochemical cycles. GLOBAL BIOGEOCHEMICAL CYCLES, VOL. 27, 1-10, doi:10.1002/gbc.20088

Ermoshin, V.V., Ganzey, S.S. and Shiraiwa, T. (2013) Land use changes in the trans-boundary Amur River basin in the 20th century. GEOGRAPHY, ENVIRONMENT, SUSTAINABILITY, Vol. 6, 4-19.

【解説】

白岩孝行(2012)アムール・オホーツクコンソーシアムの設立と運営、SEEDer, No.6, 25-30.

白岩孝行(2012) アムール・オホーツクプロジェクト:概要と成果, 特集「大陸と外洋を結ぶ溶存鉄：アムール川とオホーツク海・親潮」、海洋と生物、34 (1), 3-9.

白岩孝行(2011) 海洋基礎生産にとっての湿地-アムール川と親潮・オホーツク海の事例-、河川、No. 776, 23-27.

白岩孝行(2010)アムール川とオホーツク海-陸海境界・国境を越えた環境システムの発見と保全-、境界研究、No.1, 181-185.

白岩孝行(2007)国境を越えた陸面・海洋統合管理の必要性、Ship & Ocean Newsletter, 176, 4-5.

白岩孝行(2006) 巨大魚付林：アムール川・オホーツク海・知床を守るための日中ロの協力、外交フォーラム、No.217, 40-43.

【報告書】

白岩孝行(2011)5. 鉄が結ぶ「巨大魚附林」: アムール・オホーツクシステム、外務省・環境省主催「オホーツク生態系保全・日露協力シンポジウム」、同事務局発行、55-61.

【書籍】
白岩孝行(2014)1.3　水と鉄がつなぐ大陸と外洋、総合地球環境学研究所編「地球環境学マニュアル 1」、朝倉書店、10-13.
白岩孝行(2013)アムール・オホーツクコンソーシアムの設立とその意義、桜井泰憲・大島慶一郎・大泰司紀之（編著）「オホーツクの生態系とその保全」、北海道大学出版会、439-441.
白岩孝行(2012)第 5 章　オホーツク海の命運を握るアムール川、田畑伸一郎・江淵直人（編著）「環オホーツク海地域の環境と経済」、北海道大学出版会、117-138.
白岩孝行(2012)アムール川とオホーツク海・親潮、向井宏監修「森と海をむすぶ川」、京都大学学術出版会、48-65.
Shiraiwa, T. (2012) Chapter 8:”Giant Fish-Breeding Forest”: A new environmental system linking continental watershed with open water, M. Taniguchi and T. Shiraiwa(eds.) “Dilemma of Boundaries”, Springer, 73-85.
白岩孝行(2011)魚附林の地球環境学:親潮・オホーツク海を育むアムール川、昭和堂、226p.
白岩孝行(2011)アムールはオホーツクの恋人、北方林学会編著「北海道の森林」、北海道新聞社、291-292.
白岩孝行(2011)アムール川からオホーツク海・親潮へと至る鉄の道の発見、NHK スペシャル「日本列島」プロジェクト編著「NHK スペシャル　日本列島奇跡の大自然」、132-135.

【講演録】
白岩孝行(2013)環境学の構築に向けた異分野連携-環オホーツク海地域における試み-、佐藤源之・高倉浩樹編「連携する研究所　国立大学附置研究所・センター長会議　第 3 部会（人文・社会科学系）シンポジウム報告」、東北大学　東北アジア研究センター報告、7, 44-56.

【啓発資料】
国土交通省北海道開発局（2009）オホーツク・アムール、国土交通省北海道開発局、50p.(http://amurokhotsk.com/wp-content/uploads/2011/07/Amur_Japanese.pdf)

【記事】
国土交通省北海道開発局開発監理部開発調査課・北海道大学低温科学研究所（2012）第 2 回アムール・オホーツクコンソーシアム国際会合 2011　環オホーツク地域の環境データ共有化にむけて、開発こうほう、財団法人北海道開発協会、582、22-27.
北海道開発局開発監理部開発調査課・北海道大学低温科学研究所（2011）2011 年アムール・オホーツクコンソーシアム第二回会合にむけた国際ワークショップ～オホーツク海にとってのアムール川を考える～、開発こうほう、財団法人北海道開発協会、570, 16-21.
北海道開発局開発監理部開発調査課（2010）オホーツク海の環境保全に向けた日中露の取り組みにむけて～オホーツク海の未来可能性のために～、開発こうほう、財団法人北海道開発協会、558, 21-26.

【ウェブサイト】
http://amurokhotsk.com/

７．　補足情報

アムール・オホーツクコンソーシアムで得られた学術情報は、上述した日露政府間の隣接地域生態系保全協力プログラムに加え、北海道庁が推進する日露間の経済協力プログラム「貢献と参入」にも取り入れられている。申請者の白岩は、平成 25 年度より本プログラムの環境部会のリーダーとして、北海道の廃棄物処理・リサイクル技術をロシア極東に応用するための産官学連携を進めている。

学生優秀発表賞審査小委員会

選出母体	氏名	所属	備考
宇宙惑星科学	佐々木 晶	大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻	
大気水圏科学	田中 博	筑波大学計算科学研究センター	
地球人間圏科学	須貝 俊彦	東京大学大学院新領域創成科学研究科	
固体地球科学	成瀬 元	京都大学大学院理学研究科	
地球生命科学	北村 晃寿	静岡大学理学部	

Global Strategy Com Meeting #4
Date: 2014 Dec.2nd, Tuesday 9:30-11:40
Room: 739 at The University of Tokyo, Bldg 1,

Attendee:
Global Strategy Committee member: Gaku Kimura, Kiyoshi Suyehiro, Yukihiro Takahashi (Skype), Toshiyuki Hibiya, Sho Sasaki (Skype), Yukio Himiyama, Eiji Ohtani (Skype), Shigeko Haruyama, Yasuhiro Murayama,
President: Toshitaka Tsuda
Vice presidents: Masato Nakamura, Hodaka Kawahata
Secretariat: Mihoko Tanigami, Kayoko Shirai

Minutes
Kimura opened the meeting at 9:30
0: No comments were raised to the distributed minutes of the previous meeting.

Suyehiro explained the agenda proposal that came in today from AGU for the meeting on 5th, Fri 10-12+lunch. The purpose of the meeting is to discuss details leading to the formal meeting between JpGU and AGU during the AGU Fall Meeting on 15th, Mon 10:00-11:00.
AI: KS will report on the meeting before the JpGU Council meeting on 12/8.

1. 25th anniversary symposium "Geoscience Ahead"
AI: The committee approved the general program. JpGU needs to contact the presidents of AGU, EGU, and AOGS and ask to make presentations.

AI: Tsuda-san will draft his presentation and pass through the committee for its content. JpGU will maintain its good relationship with AOGS.
AI: The Committee approves to move ahead with the proposal for a Joint Communiqué.

Points were made on the "tone" of the communiqué. JpGU along with AGU, AOGS and EGU are not governmental bodies. JpGU needs to be realistic and serve the science communities.

Kawahata-san suggested that we should emphasize the following; (1) the proposed

symposium will convene presidents of the 4 major geoscientific unions for the first time, (2) Find common agenda from the existing bilateral MOUs, (3) provide opportunity/platform for communications to exchange current ideas and future directions.

AI: Kimura-san will negotiate with the SCJ for the symposium speaker at their meeting on December 5.

AI: Recommendation of speakers will be made by each Section by December 7 and subsequently to select 3 by this committee (second or third week of January). The speakers are expected to introduce the frontiers of your research field and refer to their interdisciplinary perspective for geoscience, the role science communities and international cooperation. The speakers will be selected from these recommendations who will be mid-career scientists, leaders of their fields, can take a holisitc view in geoscience and known to be good speakers.

2. Participants are invited to receptions on 5/25 and also on 5/26 (see distribution).

3. Bios of ex-Presidents were circulated. They are expected to participate in the panel discussion, communiqué drafting, and possibly giving lunch time lectures.

4. Suyehiro explained the draft roadmap to 2016 and 2017. Kawahata-san said the copy-editor of the PEPS was competitively selected and is of high quality. He suggested to write quantitative goals such as achieving 100% in accompanying English subtitles in all presentations by 2016.

5. The committee agreed to forward the proposal to change the rule on membership requirements for session proposals and submission of abstracts to the Council meeting

6. The aim of the mixer luncheon (5/25 Mon 13-14h) was reconfirmed to promote friendship among students and researchers from overseas. The committee members are expected to attend this event (The luncheon time overlaps with Fellows Reception Lunch).
AI: Questionnaire needs further edits. Ask if they will participate next year and ask

to name who might be interested to join. Participants need to pre-register. Dietary requirements need to be considered (Soft drinks, beer and snack to be provided).

7. Budget plan for FY2015 was explained by the secretariat. No modifications were made to the plan.

Next meeting is to be in the second or third week of January. 25th Symposium speakers will be selected.

Meeting adjourned at 11:40.

固体地球科学セクション活動報告

SEDI2014 国際シンポジウムについて

会議の趣旨と実施要領

名称　SEDI2014 International symposium (SEDI2014 国際シンポジウム)

期間　2014 年 8 月 3 日から 8 日

場所　湘南国際村センター

趣旨

本シンポジウムは、国際測地学及び地球物理学連合(IUGG)の直属の委員会である地球深部研究(Study of the Earth ’s Deep Interior: SEDI)が２年ごとに開催するものであり、地震学、地球電磁気学、測地学、鉱物学、地球流体力学を用いた地球と惑星深部の構造とダイナミクスに関する研究成果を共有し、地球と惑星深部の成り立ちや進化についての理解を深めることを目的としている。SEDI は、地球と惑星深部研究者の国際的なネットワークを形成し、地球・惑星深部研究の推進と研究者同士の情報交換をはかっている。

主催

国際測地および地球物理学連合(IUGG)　地球深部研究委員会(SEDI)

役員(任期：2011 年から 2015 年)

委員長　　田中　聡　海洋研究開発機構地球内部ダイナミクス領域　主任研究員

副委員長　Jon Aurnou　カリフォルニア大学ロサンゼルス校　准教授

事務局長　Mike Bergman サイモンズ・ロック・バード大学　教授

SEDI2014 国際シンポジウム実行委員会

委員長　清水久芳　東京大学地震研究所　准教授

松島政貴　東京工業大学理学部　助教

中川貴司　海洋研究開発機構地球内部ダイナミクス領域　主任研究員

大林政行　海洋研究開発機構地球内部ダイナミクス領域　主任研究員

高橋　太　東京工業大学理学部　助教

竹内　希　東京大学地震研究所　准教授

田中　聡　海洋研究開発機構地球内部ダイナミクス領域　主任研究員

参加費　一般 32,000 円、学生 24,000 円

参加者数（見込み）一般 120 名、学生 30 名。計 150 名

宿泊費（３食込み）シングル一泊 17,000 円、ツイン一泊 14,000 円、
トリプル一泊 12,000 円、５人部屋一泊 11,000 円

プログラム概要：セッション日程

8 月 3 日（日）　受付

8 月 4 日（月）午前　セッション 1、マントル：観測

8 月 4 日（月）午後　セッション 2、マントル：ダイナミクス

8 月 5 日（火）午前　セッション 3、コア・マントル境界

8 月 5 日（火）午後　セッション 4、高温高圧実験

8 月 6 日（水）午前　セッション 5、外核：観測

8 月 6 日（水）午後　エクスカーション、夕方コンファレンス・ディナー

8 月 7 日（木）午前　セッション 6、外核：ダイナミクス

8 月 7 日（木）午後　セッション 7、内核

8 月 8 日（金）午前　セッション 8、惑星

各セッションの構成は基本的に基調講演一つ、研究講演二つで構成される。一般の参加者はポスター発表を行う。ポスター発表は 100 件ほど見込まれ、会議開催の全期間にわたって掲示し、参加者同士の自由な議論を促進する。

SEDI 2014

Program

The meeting will feature several large topics regarding the structure, composition and dynamics of the Earth and other planetary bodies. In general, each session will include a 50 minute review talk and two 25 minute focused research talks. Each session will also feature a poster session. Poster sessions will be held at the Foyer and the adjacent lobby, which allows posters to be displayed throughout the week.

Sunday, 3rd August 2014

12:00 - 18:00	Registration	*Lobby*
18:00 - 20:00	Reception Dinner	*Lobby*

Monday, 4th August 2014

07:30 - 09:00	Breakfast	*Cafeteria OAK*

Session S1 Mantle - Observations

09:00 - 09:50	J. Ritsema (U. Michigan)	Title
09:50 - 10:15	N. Schmerr (NASA/GSFC)	Title
10:15 - 10:40	K. Yoshizawa (Hokkaido U.)	Title
10:40 - 11:40	Poster, Tea & Coffee	*Foyer & Lobby*
11:40 - 12:30	J. A. Trampert (Utrecht)	General Discussion
12:30 - 13:30	Lunch	*Cafeteria OAK*

Session S2 Mantle - Modeling & Dynamics

14:30 - 15:20	P. van Keken (U. Michigan)	Title
15:20 - 15:45	T. H. Torsvik (U. Oslo)	Title
15:45 - 16:10	M. D. Ballmer (U. Hawaii)	Title
16:10 - 17:10	Poster, Tea & Coffee	*Foyer & Lobby*
17:10 - 18:00	P. Tackley (ETHZ)	General Discussion
18:00 - 19:30	Dinner	*Cafeteria OAK*

Tuesday, 5th August 2014

07:30 - 09:00	Breakfast	*Cafeteria OAK*

Session S3 Core-Mantle Boundary

09:00 - 09:25	K. Ohta (Osaka U.)	Title

09:25 - 09:50	E. Tan (Academia Sinica)	Title
09:50 - 10:15	D. Sun (USC)	Title
10:15 - 10:40	H. Amit (LPG Nantes)	Title
10:40 - 11:40	Poster, Tea & Coffee	*Foyer & Lobby*
11:40 - 12:30	J. Hernlund (Tokyo Tech)	General Discussion
12:30 - 13:30	Lunch	*Cafeteria OAK*

Session S4 Experiments

14:30 - 15:20	J. Badro (IPGP)	Title
15:20 - 15:45	M. Murakami (Tohoku U.)	Title
15:45 - 16:10	A. Kavner (UCLA)	Title
16:10 - 17:10	Poster, Tea & Coffee	*Foyer & Lobby*
17:10 - 18:00	E. Ohtani (Tohoku U.)	General Discussion
18:00 - 19:30	Dinner	*Cafeteria OAK*

Wednesday, 6th August 2014

07:30 - 09:00	Breakfast	*Cafeteria OAK*

Session S5 Outer Core - Observations

09:00 - 09:50 Zatman Lecture	J. Mound (U. Leeds)	Title
09:50 - 10:15	S. Kaneshima (Kyushu U.)	Title
10:15 - 10:40	W. Kuang (NASA/GSFC)	Title
10:40 - 11:40	Poster, Tea & Coffee	*Foyer & Lobby*
11:40 - 12:30	G. Hulot (IPGP)	General Discussion
12:30 - 13:30	Lunch ?	*Cafeteria OAK*?
Afternoon	Conference Excusion	*Kamakura*
18:00 - 20:00	Reception & Conference Dinner	*Restaurant*

Thursday, 7th August 2014

07:30 - 09:00	Breakfast	*Cafeteria OAK*

Session S6 Outer Core - Dynamics

09:00 - 09:50	D. Lathrop	Title

	(U. Maryland)	
09:50 - 10:15	K. Soderlund (U. Texas Austin)	Title
10:15 - 10:40	B. Sreenivasan (Indian Inst. Sci.)	Title
10:40 - 11:40	Poster, Tea & Coffee	*Foyer & Lobby*
11:40 - 12:30	A. Jackson (ETHZ)	General Discussion
12:30 - 13:30	Lunch	*Cafeteria OAK*

Session S7 Inner Core

14:30 - 15:20	H. Tkalcic (ANU)	Title
15:20 - 15:45	J. C. E. Irving (Princeton U.)	Title
15:45 - 16:10	R. Deguen (Inst. Mech. Fluids Toulouse)	Title
16:10 - 17:10	Poster, Tea & Coffee	*Foyer & Lobby*
17:10 - 18:00	I. Sumita (Kanazawa U.)	General Discussion
18:00 - 19:30	Dinner	*Cafeteria OAK*
19:30 - 20:30	SEDI Business Meeting	*Auditorium*

Friday, 8th August 2014

07:30 - 09:00	Breakfast	*Cafeteria OAK*

Session S8 Other Planets

09:00 - 09:50	J. Aurnou (UCLA)	Title
09:50 - 10:15	R. F. Garcia (U. Paul Sabatier Toulouse III)	Title
10:15 - 10:40	W. Dietrich (U. Leeds)	Title
10:40 - 11:40	Poster, Tea & Coffee	*Foyer & Lobby*
11:40 - 12:30	S. Werner (U. Oslo)	General Discussion
12:30 - 13:30	Lunch	*Cafeteria OAK*

---

25 October 2013

The privacy statement of this page is described here.

Google
JAPAN Google
Japan Geoscience Union
日本地球惑星科学連合
固体地球科学セクション
MENU
トップページ
固体地球科学 – Top
固体地球科学のニュース
固体地球科学の展望
固体地球科学セクションのボードメンバー
地球内部科学FG
固体地球科学セクションの関連ウェブサイト
JpGU2014（固体地球科学）招待講演一覧
JpGU2014（固体地球科学）学生優秀発表賞
HOME
固体地球科学セクション
固体地球科学とは
地殻，マントル，コアからなる固体地球の組成・状態・構造と，様々な時間・空間スケールにおける，それらの進化過程の理解と将来予測をめざす研究分野です．
固体地球科学セクションwebサイトのお知らせ
このウェブサイトに掲載されている内容の転載を希望する場合にはJpGU事務局にお問い合わせください．
[2014.11.24] Normal Mantle ProjectのInternational Symposium2015のウェブサイトにリンクしました．
[2014.6.10]JpGU2014年大会学生優秀発表賞受賞者を掲載しました
[2014.6.4]地球内部科学小委員会のページを更新しました
[2014.5.14] ニュース記事を公開しました
[2014.4.20]日本地球惑星科学連合2014年大会固体地球科学セクションの招待講演一覧を公開しました
[2014.4.8] 関連ウェブサイトにThe 14th Symposium of SEDI, Study of the Earth's Deep Interiorを追加しました．
[2013.12.02] 固体地球科学セクションに「マントル君」が登場しました．マントル君は固体地球科学セクションを応援します
[2013.11.30] 地球内部科学小委員会がたちあがりました
[2013.11.30] ウェブサイトの移行作業を開始しました
Crust & Lithosphere
地殻とリソスフェア
Peridotite
かんらん岩
Ocean (Blue)
海
Fe-Ni Alloy
(Energy source)
鉄ーニッケル合金
Basaltic melt (Red)
玄武岩質メルト
MANTLE BOY
マントル君

固体地球科学セクションボード新メンバー

No.	氏名	所属	専門
1	鍵 裕之	東京大学大学院理学系研究科	地球化学
2	片山 郁夫	広島大学大学院理学研究科	岩石変形学
3	川本 竜彦	京都大学大学院理学研究科	岩石学，水一地球相互作用科学
4	佐野 有司	東京大学大気海洋研究所	海洋地球化学，宇宙化学
5	武井 康子	東京大学地震研究所	固体地球科学
6	中村 美千彦	東北大学大学院理学研究科	地質流体科学，プロセス岩石学
7	福田 洋一	京都大学大学院理学研究科	測地学
8	森下 知晃	金沢大学理工研究域	岩石学
9	吉田 茂生	九州大学大学院理学研究院	地球内部物理学

（50音順）

入会会員

個人情報の為非公開とする

平成26年度会員数推移

	正会員						准会員						大会会員				
	入会	変更(+)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	変更(-)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	変更(-)	現会員数
3月末						7540						392					665
4月	294	65	7	4	9	7879	32	33	2		1	388	89		9	32	713
5月	53	1	2	36	9	7886	8	0	0	0	0	396	0	1	16	1	695
6月	5	0	2	0	1	7888	7	0	0	0	0	403	1	0	1	0	695
7月	8	1	2	0	0	7895	1	1	1	0	0	402	0	0	0	0	695
8月	9	1	3	0	1	7901	1	0	0	0	0	403	0	0	288	1	406
9月	8	0	4	0	0	7905	2	0	0	0	0	405	5	0	0	0	411
10月	13	0	2	0	0	7916	1	0	0	0	0	406	6	1	0	0	416
11月	2	0	1	0	1	7916	3	0	0	0	0	409	0	0	0	0	416
12月						7916						409					416
1月						7916						409					416
2月						7916						409					416
3月						7916						409					416
	392	68	23	40	21		55	34	3	0	1		101	2	314	34	

	正会員	准会員	大会会員
2014/11/30	7916 名	409 名	416 名

変更	大会会員より正会員へ
	准会員から正会員へ

	団体会員			賛助会員		
	入会	退会	現会員数	入会	退会	現会員数
3月末			49			1
4月	1		50			1
5月			50			1
6月			50			1
7月			50			1
8月			50			1
9月			50			1
10月			50	1		2
11月			50			2
12月						
1月						
2月						
3月						
	1	0	50	1	0	2

	全会員
3月末	8597 名
4月	8980 名
5月	8977 名
6月	8986 名
7月	8992 名
8月	8710 名
9月	8721 名
10月	8738 名
11月	8741 名
12月	名
1月	名
2月	名
3月	名

審議事項：委員会委員承認の件

顕彰委員会

選出母体	氏名	所属
理事	中村　正人	独立行政法人宇宙航空研究開発機構
理事（副）	成瀬　元	京都大学大学院理学研究科
宇宙惑星科学	諸田　智克	名古屋大学大学院環境学研究科
宇宙惑星科学	渡部　重十	北海道大学大学院理学院
大気水圏科学	飯田　真一	森林総合研究所水土保全研究領域
大気水圏科学	田中　博	筑波大学計算科学研究センター
地球人間圏科学	奥村　晃史	広島大学大学院文学研究科
地球人間圏科学	須貝　俊彦	東京大学大学院新領域創成科学研究科
固体地球科学	ウォリス サイモン	名古屋大学大学院環境学研究科
固体地球科学	川勝　均	東京大学地震研究所
地球生命科学	磯崎　行雄	東京大学大学院総合文化研究科
地球生命科学	真鍋　真	国立科学博物館地学研究部

キャリア支援委員会

選出母体	氏名	所属
日本地質学会	杉田 律子	科学警察研究所

グローバル戦略委員会

選出母体	氏名	所属
–	中村 尚	東京大学先端科学技術研究センター

教育検討委員会

選出母体	氏名	所属
日本海洋学会	川合　美千代	東京海洋大学先端科学技術研究センター
日本鉱物科学会	奥山　康子	産業技術総合研究所地質調査総合センター
水文・水資源学会	小谷　亜由美	名古屋大学生命農学研究科
日本測地学会	大園　真子	山形大学理学部
地学団体研究会	飯田　和明	埼玉県立浦和東高等学校
地理科学学会	熊原　康博	広島大学大学院教育学研究科

地球惑星科学振興西田賞規則改正箇所対応表

変更前	変更後
（趣旨） この規則は、公益社団法人……	（趣旨） 第１条　この規則は、公益社団法人 （以下、条数全て変更）
（推薦） 受賞者は正会員による推薦または自薦により候補者となるものとし、推薦者１名が以下の内容が記載された推薦書（任意書式）をもって会長に推薦するものとする。	（推薦） 選考対象は他薦または自薦による候補者とする。候補者は会員・非会員を問わない。他薦の場合、正会員のみが推薦者となることができる。他薦の場合は推薦者１名が、自薦の場合は本人が、以下の内容が記載された推薦書（任意書式）をもって会長に推薦するものとする。
（４）推薦理由書（Ａ４で６ページ以内、日本語あるいは英語）	(4)推薦理由書（Ａ４で６ページ以内、日本語あるいは英語） 自薦の場合は本人が、他薦の場合は推薦者が作成する。
（５）自薦の場合は２通の推薦書、他薦の場合は推薦者以外の２名のサポートレター（日本語あるいは英語）	(5)２通のサポートレター（自薦の場合は本人以外の２名、他薦の場合は推薦者以外の２名が、日本語あるいは英語により作成する。いずれの場合もサポートレターを作成する２名については会員・非会員を問わない。）

地球惑星科学振興西田賞規則（現行）

2014 年 4 月 28 日　理事会制定

（趣旨）

この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）が「地球惑星科学振興西田賞」により、地球惑星科学の分野において国際的に高い評価を得ている優れた中堅研究者を表彰する為に必要な事項を定めるものである。本賞の名称は西田篤弘会員のご提案と寄付金により本賞を維持することに由来する。

（受賞者の要件）

第１条　受賞者は、次の各号に該当するものとする。

（１）審査年度の４月１日時点において 45 歳未満である者。

（２）地球惑星科学の分野において新しい発想によって優れた研究成果を挙げ、国際的に高い評価を得ている者。

２．原則として個人とするが、授賞１件につき２名までの連名を認める場合がある。

（選考・受賞者数）

第２条　受賞者の選考は隔年で行ない、選考毎に 10 件以内を選ぶ。

２．受賞者数は、連合の各セクションから１件以上とし、配分においてはセクションの規模を考慮する。

（推薦）

第３条　受賞者は正会員による推薦または自薦により候補者となるものとし、推薦者１名が以下の内容が記載された推薦書（任意書式）をもって会長に推薦するものとする。

（１）候補者の名前、連絡先（所属機関、住所、電話番号、メールアドレスなど）

（２）候補者の経歴、受賞歴

（３）査読付き論文リストおよび主要な論文５編の別刷り

（４）推薦理由書（Ａ４で６ページ以内、日本語あるいは英語）

（５）自薦の場合は 2 通の推薦書、他薦の場合は推薦者以外の 2 名のサポートレター（日本語あるいは英語）

（６）他薦の場合は推薦者の氏名と連絡先（住所、電話番号、メールアドレスなど）

２．推薦書の MS Word ファイルとその PDF を日本地球惑星科学振興西田賞事務局にメールにて送付する事とする。

３．推薦者は、本人に授賞の意志があることを事前に確認しなければならない。

（審査委員会）

第４条　理事会は、地球惑星科学振興西田賞審査委員会（以下、「審査委員会」という。）を設置し、推薦された候補者の中から受賞者を選考する。

２．審査委員会に関する規則は別に定める。

（授与）

第５条　理事会は、審査委員会からの選考結果を受け、受賞者を認定する。

２．会長は表彰式において受賞者に賞状を授与する。

３．副賞として受賞者に１件あたり 50 万円を贈る。原資は地球惑星科学振興西田賞特別会計とする。

（推薦・審査の実施時期）

第６条　候補者の推薦及び審査の時期は理事会が定める日程をもって行う。

（規定の改廃）

第７条　この規定の改廃は、理事会の決議を必要とする。

附則

（１）この規則は、2014 年 4 月 28 日から施行する。

（２）本賞の授賞は 2014 年度から開始し、以降、隔年（西暦の偶数年度）にて行う。

（３）本賞の授賞式は選考年度の翌年に行う。

2014 年 4 月 28 日　理事会制定

2014 年 6 月 2 日　理事会改正

地球惑星科学振興西田賞規則（改正案）

2014 年 4 月 28 日　理事会制定

（趣旨）

第１条　この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）が「地球惑星科学振興西田賞」により、地球惑星科学の分野において国際的に高い評価を得ている優れた中堅研究者を表彰する為に必要な事項を定めるものである。本賞の名称は西田篤弘会員のご提案と寄付金により本賞を維持することに由来する。

（受賞者の要件）

第２条　受賞者は、次の各号に該当するものとする。

(1) 審査年度の４月１日時点において 45 歳未満である者。

(2) 地球惑星科学の分野において新しい発想によって優れた研究成果を挙げ、国際的に高い評価を得ている者。

2 原則として個人とするが、授賞１件につき２名までの連名を認める場合がある。

（選考・受賞者数）

第３条　受賞者の選考は隔年で行ない、選考毎に 10 件以内を選ぶ。

2 受賞者数は、連合の各セクションから１件以上とし、配分においてはセクションの規模を考慮する。

（推薦）

第４条　選考対象は他薦または自薦による候補者とする。候補者は会員・非会員を問わない。他薦の場合、正会員のみが推薦者となることができる。他薦の場合は推薦者１名が、自薦の場合は本人が、以下の内容が記載された推薦書（任意書式）をもって会長に推薦するものとする。

2 推薦書の構成

(1) 候補者の名前、連絡先（所属機関、住所、電話番号、メールアドレスなど）

(2) 候補者の経歴、受賞歴

(3) 査読付き論文リストおよび主要な論文５編の別刷り

(4) 推薦理由書（Ａ４で６ページ以内、日本語あるいは英語）
自薦の場合は本人が、他薦の場合は推薦者が作成する。

(5) ２通のサポートレター（自薦の場合は本人以外の２名、他薦の場合は推薦者以外の２名が、日本語あるいは英語により作成する。いずれの場合もサポートレターを作成する２名については会員・非会員を問わない。）

(6)他薦の場合は推薦者の氏名と連絡先（住所、電話番号、メールアドレスなど）

3 推薦書の MS Word ファイルとその PDF を日本地球惑星科学振興西田賞事務局にメールにて送付する事とする。

4 推薦者は、本人に授賞の意志があることを事前に確認しなければならない。

（審査委員会）

第 5 条　理事会は、地球惑星科学振興西田賞審査委員会（以下、「審査委員会」という。）を設置し、推薦された候補者の中から受賞者を選考する。

2 審査委員会に関する規則は別に定める。

（授与）

第 6 条　理事会は、審査委員会からの選考結果を受け、受賞者を認定する。

2 会長は表彰式において受賞者に賞状を授与する。

3 副賞として受賞者に 1 件あたり 50 万円を贈る。原資は地球惑星科学振興西田賞特別会計とする。

（推薦・審査の実施時期）

第 7 条　候補者の推薦及び審査の時期は理事会が定める日程をもって行う。

（規定の改廃）

第 8 条　この規定の改廃は、理事会の決議を必要とする。

附則

(1)この規則は、2014 年 4 月 28 日から施行する。

(2)本賞の授賞は 2014 年度から開始し、以降、隔年（西暦の偶数年度）にて行う。

(3)本賞の授賞式は選考年度の翌年に行う。

2014 年 4 月 28 日　理事会制定
2014 年 6 月 2 日　理事会改正
2014 年 12 月 8 日　理事会改正

大会における AGU 会員の取り扱いについて

【2015 年大会への提案】

First authors and principal session conveners of JpGU annual meetings will be JpGU members only.

連合大会への AGU 会員参加数（人）
2013 年:事前 45 当日 8 合計 53
2014 年:事前 75 当日 15 合計 90

(参照) AGU Meeting web 掲載内容

Registration Rates

Note: The deadline to receive the member rate was on 14 October. Members of cooperating societies are eligible to register at the member rate

Cooperating Societies

Members of the following cooperating societies qualify to register at the member rate: American Congress on Surveying and Mapping, American Meteorological Society, American Society for Photogrammetry and Remote Sensing, Asian Oceania Geosciences Society, Asociación Latinoamericana de Geofísica Espacial, Asociación Latinoamericana de Paleomagnetismo y Geomagnetismo, Canadian Geophysical Union, Chinese Geophysical Society, European Geosciences Union, Geochemical Society, Geological Association of Canada, Geological Society of America, **Japan Geoscience Union,** Mineralogical Society of America, Society of Exploration Geophysicists, Soil Science Society of America, Unión Geofísica Mexicana

Abstract Submission Policies

Authors

- The person submitting the abstract will automatically be the First Author. This cannot be modified. The First Author will receive all communications regarding their abstract.
- The First Author, **including invited authors**, **MUST** be an AGU member.

Session Proposals

AGU Membership

The primary convener **MUST** be an AGU member and up to date on 2014 membership dues in order to propose a session. Co-conveners are not required to be AGU members but will need to be AGU members and up to date with 2014 membership dues in order to receive access to the scheduling tool in the fall. ……

FAQs

Do I have to be an AGU member to attend?

No, but the registration rates are reduced for AGU members and those who are members of our cooperating societies. Contact the AGU Member Services Department to join or renew your AGU membership at +1 202-462-6900

Do I need to be an AGU member in order to submit an abstract?

The first author **MUST** be an AGU member and up to date on 2014 membership dues in order to submit an abstract. Coauthors are not required to be AGU members. Individuals may join or renew their AGU membership online. **Note to Members of Cooperating Societies:** Members of the American Meteorological Society (AMS), European Geosciences Union (EGU), and Mineralogical Society of America (MSA) may join AGU or submit abstract to the sessions co-sponsored by their respective societies. AMS, EGU and MSA members (who are not AGU members) must contact the AGU Member Service Center

AGU との会議について

JpGU-AGU Joint Meeting

Date: Monday December 15th 2014
9-10AM

Venue: Executive Committee Room; Room 220 and 222
Moscone South Mezzanine
San Francisco, California

Attendee:

JpGU
Gaku Kimura
Kiyoshi Suyehiro
Simon Wallis
Fumiko Tajima
secretery office (Mihoko Tanigami and Kayoko Shirai)

AGU
Carol Finn (President)
Margaret Leinen(President-elect)
Christine McEntee (Executive Director)
Frank Krause (Chief Operating Officer)

参考：
AGU FALL MEETING 2014
December 15th – 19th 2014
Moscone Center
San Francisco, California

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 26 年度第 6 回理事会議事録

１．開催日時　　平成 26 年 10 月 24 日（土）
　　午前 9 時 30 分から午後 12 時 30 分

２．開催場所　　東京大学理学部 1 号館 7 階　710 号室
　　（東京都文区本郷 7-3-1）

３．出席者　　理事数　　20 名
　　出席理事　　12 名　（定足数 11 名　会議成立）
　　オブザーバー 9 名

４．議　長　　理事　津田　敏隆

５．出席役員
　　理事　津田　敏隆
　　理事　川幡　穂高
　　理事　木村　学
　　理事　中村　正人
　　理事　北　和之　（teleOffice 出席）
　　理事　高橋　幸弘
　　理事　瀧上　豊
　　理事　田中　賢治
　　理事　成瀬　元
　　理事　浜野　洋三
　　理事　古村　孝志
　　理事　村山　泰啓
　　監事　鈴木　善和
　　監事　松浦　充宏

６．出席オブザーバー
　　宇宙惑星科学セクションプレジデント　佐々木　晶
　　大気水圏科学セクションプレジデント　中島　映至
　　固体地球科学セクションプレジデント　大谷　栄治　（teleOffice 出席）
　　地球生命科学セクションプレジデント　小林　憲正

大気水圏科学セクション幹事　川合　義美
地球人間圏科学セクション幹事　島津　弘
学協会長会議議長　田近　英一
グローバル戦略委員会委員　末広　潔

午後 13 時 30 分，理事の定数に足る出席があったので，会長津田敏隆は議長席に着き，理事会が成立することを宣言した．ウェブ会議システム TeleOffice を利用し，東京大学理学部１号館と東北大学，および茨城大学とで同時に会議に参加できるようにし，審議を確実に行うことができることを三者で確認した．続いて，以下の議事について，逐次審議に入った．

７．報告事項
(1) 委員会・セクション活動報告
(1-1) 瀧上 豊理事　職務報告　教育検討委員会活動報告　資料 P. 1-5
第 8 回国際地学オリンピック・スペイン大会についての報告があった．日本チームの成績は金メダル３個，銅メダル１個の過去最高の成績となった．
第 10 回日本大会について，寄付金（協賛金）の募集を受け付けている．連合からの支援の要請もあった．可能な場合は 3 月までに表明してほしい．
教育課程小委員会で高校理科「地学基礎」に関するアンケート調査を検討している旨報告があった．
理数系学会教育問題連絡会シンポジウム実行委員会主催によるシンポジウム「これからの理数系教育を考える」を 10 月 26 日（日）に開催予定である．本シンポジウムは連合も共同主催となっている．
地学教育小委員会について，これを解消することを検討している．

(1-2) 古村孝志理事　職務報告　総務委員会活動報告　資料 P. 6-7
内閣府公益認定等委員会事務局より，当連合の社員（代議員）選出に関して以下の２点の指摘があったことが報告された．
1. 当連合の社員（代議員）は，正会員により選出された代議員（選出代議員）と団体会員（加盟学協会）の代表（団体代議員）により構成されるが，正会員によっては，自身が加盟する学協会の代表の選出を通じて二重に連合の意志決定に参画できることになり，公平性に欠けるのではないか．
2. 選出代議員に比べて，団体代議員の適正を将来にわたって保証する制度設計が不十分ではないか．
またこれに対し WG により検討を進めていることが報告された。1 に関しては，当連合の「学協会との共存共栄」の方針に変わりはなく，認定法に則りながら現状の社員体制を継

続できるよう方策を検討中である.2 については，今後の団体会員の入会基準を厳格化する方向で対応を検討中である.

連合が用いる各用語の英語対応表を準備していることの報告があった.

(1-3) 川幡 穂高理事　職務報告　ジャーナル企画経営委員会活動報告　資料 P.8-9

ジャーナル「Progress in Earth and Planetary Science」関連の報告があった．現在の編集･出版状況について報告があった.

システム関連では，投稿･査読システムが新システム Editorial Manager へ以降したこと，Cross Check を実施し剽窃対策を導入したことが報告された.

企画経営関連では，ジャーナル特別セッションの募集中であること，トムソンロイター Web of Science への登録申請を準備中であること，国立図書館への献本を実施したことが報告された.

(1-4) 中村 正人理事　職務報告　男女共同参画委員会活動報告　資料 P.10-11

10 月 4 日（土）に実施された第 12 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムについて報告があった.

(1-5) 中村 正人理事，成瀬 元理事　職務報告　褒賞関連活動報告　資料 P.12-22

褒賞関連の各活動について，以下のように報告があった.

2015 年度公益社団法人日本地球惑星科学連合フェロー，2014 年度地球惑星科学振興西田賞について，それぞれ候補者募集を受付中である.

とうきゅう環境財団社会貢献学術賞について，連合より推薦した吉野正敏教授が受賞者に決定した.

日立環境財団より，環境賞の受賞候補者の推薦について案内があった．セクション毎に推薦を募り，褒賞関連理事が取りまとめ，連合としての推薦者を決定する.

(1-6) 中島映至プレジデント報告　大気水圏科学セクション活動報告　別添資料

衛星地球観測計画に対する対応について報告があった．地球観測の将来構想について，第 22 期日本学術会議では地球観測の将来構想に関する検討小委員会が設置された．地球観測タスクフォースコミュニティ（TF）幹事会により，6 月 18 日に提言「地球観測に関する緊急提言」が示された．地球観測タスクフォース地球科学研究高度化ワーキンググループが発足した．今後，大気水圏科学セクションが中心となって対応し，連合全体としてこの問題を検討してゆく.

(2) 津田 敏隆理事　職務報告　寄付金受領関連報告　資料 P.23-24

西田篤弘会員からの寄附について，寄附申込書を受領したこと，また寄附受諾書を手渡

したことの報告があった.

(3) 木村 学理事, 佐々木 晶プレジデント職務報告　日本学術会議関連報告　資料 P. 25-45

10 月 1 日より発足した第 23 期日本学術会議について, 会員および連携会員について紹介があった. また, 9 月 27 日の 22 期日本学術会議地球惑星科学委員会社会貢献分科会による記録, 地球に生きる素養を身につける「地球を好きになる教育の勧め」について紹介があった. この中で「地球･惑星検定」の検討について紹介があり, 連合がこの事業を引き受けることについて検討した. 今後は木村理事, 北里監事が中心となり, 公益法人認定との兼ね合いや, 財務面, サービス面などに留意しながら検討してゆくとした.

(4) 田近 英一学協会議議長報告　第 11 回学協会長会議報告　資料 P. 46

10 月 16 日（木）に実施された第 11 回学協会長会議について報告があった. 連合の活動報告, 日本学術会議の近況報告が主な内容であった.

既に総務委員会より報告のあった, 内閣府公益認定等委員会事務局からの指摘についても報告した.

昨年の連合大会では日本学術会議の発案, 連合環境災害対応委員会の主催によりユニオンセッション「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？」を開催したが, 今回も同様のセッションの提案を検討した. 学協会長会議後, 環境災害対応委員会が本件についてセッションを提案したことが環境災害対応委員長田中理事より報告された.

８. 審議事項

第 1 号議案　会員（正会員）および賛助会員入会承認の件（古村 孝志理事）資料 P.47-49

定款第８条２項の会員の入会の定めに従い, 新規入会者および賛助会員（株式会社フォルテ）の入会を承認した.

第 2 号議案　委員追加承認の件　（古村 孝志理事）資料 P. 50

竹村 貴人会員, 井口 隆会員, 宮地 良典会員, 卜部厚志会員の計 4 名を, 環境災害対応委員会の委員として承認した.

第 3 号議案　ユニオンサイエンスボードメンバー追加の件　（津田 敏孝会長）資料 P. 51

大久保 修平会員, 高橋 桂子会員, 中村 尚会員, 藤井 良一会員, 川口 淳一郎会員の計 5 名を, ユニオンサイエンスボードメンバーとして承認した.

第 4 号議案　顕彰委員会設置の件　（中村 正人理事）資料 P.52-53

顕彰委員会の設置を承認した. 顕彰委員会規則を承認し, それに伴って法人運営規則第 9

章第 16 条に，「(13)顕彰委員会」を追加した．顕彰委員会担当理事は中村 正人理事，副担当は成瀬 元理事とした．

第 5 号議案　地球惑星科学振興西田賞審査委員会設置規則変更の件　（中村 正人理事）資料 P.54

地球惑星科学振興西田賞審査委員会の選任基準について（内規）を承認した．

第 6 号議案　地球惑星科学振興西田賞審査委員承認の件　（中村 正人理事）資料 P.55

地球惑星科学振興西田賞審査委員会委員候補者を承認した．ただし地球惑星科学振興西田賞審査委員会設置規則第 6 条に基づき，委員の氏名を公表するのは受賞者が決定した時点とするため，本議事録には氏名を記さない．

第 7 号議案　広報普及委員会正副委員長変更の件　（成瀬 元理事）資料 P.56

広報普及委員会の委員長を成瀬 元理事から田近 英一委員に，また副委員長を道林 克禎理事から原 辰彦委員に変更することを承認した．

第 8 号議案　来年度の予算編成について　（北 和之理事）資料 P.57-58

今年度予算に比べ支出が多くなり，決算は赤字見通しであることが報告された．次年度予算編成に当たっては，予算にない支出は基本的にはないよう慎重な検討を行いゆとりのある予算編成が必要なため，その旨セクション・委員会への協力要請があった．

第 9 号議案　今後の連合大会の方針の件　資料 P.59-65

・浜野 洋三理事　職務報告

2015 年連合大会の準備状況について報告があった．前日 10 月 23 日にセッション提案を締め切った．締切の段階で 189 件のセッション提案があり，ほぼ平年並みの提案であった．

・木村 学理事　職務報告

2017 年連合大会の AGU との共催に向け，グローバル委員会木村理事から準備報告があった．12 月 AGU 大会において AGU 首脳部との会談を行う．また，末広潔会員が国際化アドバイザーとして正式に着任した．

・今後の連合大会の方針について

今後の連合大会の方針について議論した。2016 年大会の会場を幕張メッセに決定した．

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ，閉会を宣した．（午後 13 時 30 分）
以上の議事の要領及び結果を明確にするため，本議事録を作成し，出席理事は次に記名・押印する．（捺印欄配布時省略）

平成 27 年度
事業計画書 (案)

自　平成 27 年 4 月　1 日

至　平成 28 年 3 月 31 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合

〒113-0032　東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階
電話：03-6914-2080　　Fax：03-6914-2088

平成27年度　事　業　計　画　書

公益社団法人第5期（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

平成27年（2015年）度は，公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下,「連合」という.）がこれまで推進してきた「我が国の地球惑星科学コミュニティーを代表し，国際連携および社会への情報発信，関連分野の研究発表および情報交換を行い,学術および科学技術の振興等に寄与することを目的とする活動」を一層推進する.特に,

１）国際シンポジウムを含む日本地球惑星科学連合大会の更なる発展

２）一般公開講座や高校生セッション等の開催や国際地学・地理オリンピック活動支援等を通しての，関連科学の一般への普及

３）国の科学・技術政策，教育問題の検討や提言，キャリアパス支援活動等を通しての教育・キャリア支援

４）連合ジャーナルの創刊準備

の活動を推進する.

ヨーロッパの地球惑星科学連合(EGU),アジア太平洋地球科学学会(AOGS)および米国地球物理連合(AGU)等の組織との国際連携を一層強化して，地球惑星科学の更なる国際化の展開と発展を目指す.

また、2015年連合大会は、合同大会（第1回1990年）から数えて26回目となり、25周年記念大会と位置づけて、連合大会会期中に、記念行事（シンポジウム）をおこなう。

Ⅰ．事業の概要

１．地球惑星科学に関わる研究発表会および国際会議等の開催

（１）日本地球惑星科学連合 2015 年大会（連合大会）の開催

地球惑星科学に関する学理およびその応用に関する研究発表を通じて，地球惑星科学の進歩と普及を図ることを目的に，当該科学に関連する研究，教育に携わる，あるいは関心を持つ全ての人々を対象として，公開による学術大会を開催し，関連分野の研究発表と情報交換の場を設ける．特に，ポスター発表については昨年度に引き続き３分間の概要説明の時間を設けて発表者と聴衆の議論を深める．また，地球惑星科学に関連した研究教育機関，学協会，民間企業からの最新の情報や，各種プロジェクトの成果を大会参加者に紹介するための展示を設けるともに，学術研究および教育に有益な，地球惑星科学関連書籍・機器・資料の展示を行う．会場は、幕張メッセ国際会議場へ戻り、大会期間中に 25 周年記念行事の一環として、記念シンポジウムを行う。

日本地球惑星科学連合 2015 年大会（Japan Geoscience Union Meeting　2015）

会　期：2014 年 5 月 24 日(日)～28 日(木)

場　所：幕張メッセ国際会議場（〒261-0023　千葉市美浜区中瀬 2-1　）

大会委員長：田近英一（東京大学　学協会長会議議長）

主　催：公益社団法人日本地球惑星科学連合

後　援：45 団体（日本学術会議，文部科学省，気象庁 気象研究所，気象庁 地磁気観測所，海上保安庁，国土交通省 国土地理院，北海道立総合研究機構環境・地質研究本部　地質研究所，高エネルギー加速器研究機構，情報・システム研究機構 国立極地研究所，自然科学研究機構 国立天文台，情報・システム研究機構 統計数理研究所，国立教育政策研究所，宇宙航空研究開発機構，海洋研究開発機構，科学技術振興機構 日本科学未来館，建築研究所，国立科学博物館，国立環境研究所，産業技術総合研究所，情報通信研究機構，森林総合研究所，石油天然ガス・金属鉱物資源機構，土木研究所，日本原子力研究開発機構，農業環境技術研究所，農業・食品産業技術総合研究機構　農村工学研究所，物質・材料研究機構，防災科学技術研究所，理化学研究所，地震予知総合研究振興会，地球環境産業技術研究機構，深田地質研究所，電力中央研究所，日本宇宙フォーラム，日本地図センター，全国地質調査業協会連合会，電子情報通信学会，東京都地質調査業協会，日本機械学会，日本航空宇宙学会，日本測量協会，日本分析機器工業会，横浜市，横浜観光コンベンションビューロー，パシフィコ横浜）

協　賛：6 学協会（日本高圧力学会，日本サンゴ礁学会，日本天文学会，日本地震工学会，土木学会，地盤工学会）

開催セッション数：

カテゴリー別	開催数	
U: ユニオンセッション	7	(*2)
O: パブリック	5	(*0)
P: 宇宙惑星科学	23	(*12)

A: 大気水圏科学	22	(*9)
H: 地球人間圏科学	25	(*9)
S: 固体地球科学	62	(*17)
B: 地球生命科学	10	(*3)
G: 教育アウトリーチ	6	(*1)
M: 学際・広領域	31	(*6)
計	191	(*59)

(*) 国際セッション数（内数）

発表論文数：4000 件

参加者数：6500 人

展示企画（ブース数）：団体展示（51），書籍出版関連商品（23），大学インフォメーションパネル（8），学協会エリア個別デスク（10），パンフレットデスク展示（3）

（２）国際シンポジウム「JpGU International Symposium 2015」の開催

連合大会の国際化を推進するために，連合大会において英語を発表言語とする国際セッションを多数開催し，これを国際シンポジウムとして位置づけたプログラム編成を行なう．今年度は 41 件の国際セッションを予定している．

（３）「高校生によるポスター発表」の開催

将来を担う高校生を対象に，授業や課外活動で行った地球惑星科学に関する研究や学習の成果を研究者に対して発表するための，連合大会初日（5 月 24 日）にポスター発表会を開催する．今年度は，前年度程度（68 件）の発表を予定している．

（４）地球惑星科学関連の一般公開プログラムの開催

一般市民を対象として，地球惑星科学に関連した研究成果の広報・普及活動を通して地球惑星科学の普及を図るために，連合大会会期中に「地球惑星科学トップセミナー」他を開催する．また，11 月頃に「秋の公開講演会」を開催予定である．

■地球惑星科学トップセミナー

期　　日：平成 27 年 5 月 24 日（日）

主　　催：広報普及委員会

内　　容：地球惑星科学分野における最新の成果を招待講演者に分かりやすく紹介していただくアウトリーチセッション

講師名別途確定

■研究者の多様なキャリア形成を考える

期　　日：2015 年連合大会会期中

主　　催：男女共同参画委員会，キャリア支援委員会

内　　容：

ポスドク問題が社会問題となってから、任期付研究員の雇用形態も多様化した。

しかしながら、若手研究者の就業実態は依然厳しい状況である。このため、それを間近で見聞きしている学部生や修士課程の院生が博士課程への進学を敬遠するなど、若手研究者育成の観点からも悪循環に陥っている。本セッションでは、キャリア支援委員会と男女共同参画委員会が共催して、任期付研究員制度が抱える問題について精査し、キャリア形成のより良い構築を考える。

■ジオパークへ行こう

期　　日：平成 27 年 5 月 24 日（日）

主　　催：日本ジオパーク委員会

内　　容：

ジオパークに興味のある市民、高校生、教員の方々を対象として、日本各地のジオパークで活躍するジオガイドが、ジオパークの見どころをわかりやすく面白く紹介します。ポスターセッションでは各地のジオパークやジオパークをめざす地域から、教育活動や普及活動の事例報告を行います。

発表団体名　確定次第掲載

■日本地球惑星科学連合　秋の公開講演会

期　　日：2015 年 11 月　（予定）

場　　所：(未定)

主　　催：広報普及委員会

内　　容：(未定)

（5）「スペシャルレクチャー」の開催

学部生や院生を主たる対象として，連合大会会期中の昼食時にスペシャルレクチャーをシリーズで開催する．5 つのセクションの各分野の最新トピックスについて世界的第一人者を講師に迎えて，異分分野の聴衆を対象とするわかりやすい内容の講演会を開催する．

期　　日：平成 27 年 5 月 24 日（日）～5 月 28 日(金)　(5 月 26 日除く)毎日昼　13：00～13：40　予定

場　　所：国際会議室 IC(予定)

主　　催：大会運営委員会

内　　容：宇宙惑星科学セクション　講演内容・講師別途確定

大気水圏科学セクション　講演内容・講師別途確定

地球人間圏科学セクション　講演内容・講師別途確定

固体地球科学セクション　講演内容・講師別途確定

地球生命科学セクション　講演内容・講師別途確定

（6）関連集会の開催

地球惑星科学コミュニティーに共通する諸問題についての検討と関連情報の周知をサポートする目的として，各種集会・懇談会を開催する．今年度は連合大会会期中に全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会を開催する．

■全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会

日　　時：連合大会　会期中

主　　催：日本学術会議地球惑星科学委員会，日本地球惑星科学連合大学および大学院教育小委員会

内　　容：　全国の地球惑星科学系専攻長・学科長が一同に会し，地球惑星科学系大学の発展と大学院教育の在り方についての情報交換を行う．

２．地球惑星科学に関わる研究成果の刊行および教育普及

我が国の地球惑星科学および関連科学の振興と普及を目的として，地球惑星科学に関する学理およびその応用に関する知識や情報の交換の促進を図るために，連合学術誌の創刊に向けた準備とともに，連合加盟学協会の出版事業の広報普及の支援を行う．

（1）連合学術誌の出版の高度化

H26 年４月に初版が発刊された JpGU のオープン・アクセス（OA）電子ジャーナルのさらなる国際情報発信力強化を行っていく．そのために，日本学術振興会からの科学研究費補助金（研究成果公開促進費）を有効に活用して，投稿及び引用を促進するための施策を推進する予定である．具体的には，①2013-14 に引き続き、201５連合大会の発表の中からコンビナー推薦の優秀発表への投稿依頼，②2014 年度において成果のあった、ジャーナル国際セッション及びジャーナル国際シンポジウムにおける旅費の支援と原稿依頼，③科学的にホットなテーマを取り上げて論文の投稿を呼びかける SPEPS の推進などである．また、出版された論文を紹介する仕掛けづくりに取組むとともに、広く新ジャーナルの認知を得るために、国際会議へのブース出展やパンフレットへの広告掲載などを通じて、広報活動にも努める。さらに、連合大会と連携した海外情報発信強化・引用促進のアピールサイトの充実と普及に取組む。

また、当初の課題の一つであった他誌との連携の可能性についての検討に着手する。

（2）連合加盟学協会による学術誌出版の広報普及支援

海外で開催される国際学術大会で連合ブースを出展し，連合加盟学協会が出版する学術誌の展示等を行うなど，地球惑星科学および関連科学の学術出版物の広報普及に関する支援を行う．

国際学術発表会における展示：

開催日	開催場所	出展大会名
2015 年 4 月 12-17 日	ウィーン,オーストリア	EGU General Assembly 2015
2015 年 8 月 2-7 日	シンガポール	AOGS Annual Meeting
2015 年 12 月	アメリカ，サンフランシスコ	AGU Fall Meeting

（３）ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行

連合の会員（個人・団体会員）および，科学館，博物館，高等学校教員，関連企業等の関係者や一般市民を対象として，地球惑星科学の研究成果の広報・普及を目的としてニュースレター誌「JGL」を年４号定期発行する．

発行部数　：26,000～30,000 部
配 布 先　：会員（個人，団体）
国立国会図書館
科学館（日本科学未来館，日本科学技術館他）
博物館（国立科学博物館，神奈川県立生命の星・地球博物館他）
高等学校（東京都立戸山高等学校，千葉県立船橋高等学校，早稲田大学高等学院他）
関連企業（NPG ネイチャーアジア・パシフィック，株式会社タイロス他）

（４）ウェブサイト，メールニュースを活用した広報・普及事業

連合の会員および一般市民を対象に，ウェブサイトや毎月発行のメールニュース等を通して，地球惑星科学に関連するニュース，国内外の学会・シンポジウム・研究集会・一般公開イベントや求人・公募等の情報を配信する．メールニュースの内容を一層充実させ，年間 30 本程度配信するほか，ウェブサイトを刷新して，会員および一般市民が地球惑星科学関連情報にアクセスしやすい環境を提供する．

（５）連合大会における「学生優秀発表」の表彰

連合大会における学生優秀発表賞の表彰をセクション単位で実施する．2014 年大会では，宇宙惑星科学，大気水圏科学，地球人間圏科学，固体地球科学，地球生命科学の全５セクションが実施を予定している．学生優秀発表賞のシステムの充実を図り、増強された WEB システムを利用して、学生優秀発表表彰制度の安定的な運営をめざす。

３．国および社会一般からの諸要請に対応した地球惑星科学コミュニティーにおける意見集約とこれに基づく提言

地球惑星科学コミュニティーの意見を集約するとともに，日本学術会議を含む国および社会一般への諸要請への対応に関わる要請に対応するために，以下の活動を行う．

（１）学協会長会議の開催

国内の地球惑星科学および関連分野の研究者を対象に，学協会長会議を年に２回開催して，地球惑星科学コミュニティーの意見集約を行うとともに，自然科学に関わる国内外の情勢についての情報交換を行う．連合理事会からの諮問，および学協会や日本学術会議から提案される重要な課題について議論し，意見集約と対外的情報発信を行う．

第 12 回学協会長会議

期日：2015 年 5 月 27 日（水）13：00～14：00

場所：パシフィコ横浜会議センター（横浜市）

第 13 回学協会長会議

期日：2015 年 10 月（予定）

場所：東京大学　（東京都文京区）

（２）地球惑星科学コミュニティーの意見集約

国および社会一般からの諸要請に基づき，地球惑星科学コミュニティーの意見集約と，コミュニティーへの情報伝達を行う．特に，日本学術会議が発出する声明を連合ウェブやメールニュース，関連メーリングリストを通じて地球惑星科学コミュニティーへの周知をサポートする．

４．地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進

我が国の地球惑星科学コミュニティーを代表して，地球惑星科学の国際的な発展に寄与することを目的に，地球惑星科学に関する国際的な研究協力と交流活動の推進を図る．

（１）地球惑星科学に関わる国際学協会との連携および協力

ヨーロッパの EGU，米国の AGU，ならびにアジアの AOGS 等の国際的な学協会と連携協力し，地球惑星科学に関わる国際会議等の企画，開催，国際的プロジェクトの推進等を行う．

また、7 月末に日本で開催される国際会議 XIX INQUA Congress（国際第四紀学連合第 19 回大会）への活動支援を行う．

開催日	開催場所	出展大会名
2015 年 4 月 12-17 日	ウィーン,オーストリア	EGU General Assembly 2015
2015 年 7 月 27 日-8 月 2 日	名古屋,日本	XIX INQUA Congress
2015 年 8 月 2-7 日	シンガポール	AOGS Annual Meeting
2015 年 12 月	アメリカ，サンフランシスコ	AGU Fall Meeting

（２）国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

高校生を対象に，地球惑星科学への認識を高めるとともに地球惑星科学の学習を促進と若年層による国際交流を深めることを目的に，国際科学（地学・地理）オリンピックの日本大会を連合の共催事業として行うほか，外国開催に関わる支援を行う．

第 12 回国際地理オリンピック

期日：

場所：

第 9 回国際地学オリンピック

期日：

場所：

※第 10 回国際地学オリンピック（日本大会）の開催準備

期日：2016 年 8 月（予定）

場所：日本・三重県

５．地球惑星科学知見の社会還元

地球惑星科学の研究成果を統合的な形で社会へ還元し，科学的提言を発信する．

（１）複合的自然災害への対応と科学的提言の発信

地球上で起こる自然科学現象の複合災害化に備え，地球惑星科学の総合的，かつ蓄積された研究成果を社会へ還元することを目的として，風水害，地震，火山，津波などの自然災害などの統合的な対策にむけた科学的提言を行う．

（２）複合的自然災害リテラシーの普及

複合的自然災害に対して，国民の基礎知識を高め，突発的災害によるリスクを最小限することを目指し，自然災害に関する大量の情報の中から必要なものを探し，情報を加工して意思決定するための基礎的な知識や技能（複合的自然災害リテラシー）の普及を支援するための活動を行う．

６．日本地球惑星科学連合ユニオンおよびセクション・サイエンスボード，委員会活動

広く国内外の地球惑星科学関連分野の研究者を対象に，地球惑星科学の推進と学術の推進振興をはかることを目的として，ユニオンサイエンスボードおよびセクション・サイエンスボード，並びに各委員会の活動を推進する．

（１）ユニオンサイエンスボードの活動

現在の５つの分野別セクション（宇宙惑星科学，大気海洋・環境科学，地球人間圏科学，固体地球科学，地球生命科学）に加え，それらを統一するユニオンサイエンスボードという新たな枠組みを設け，各々の分野の活動に加えて地球惑星科学全体を統合した活動を進める．

宇宙惑星科学セクション

・宇宙惑星科学セクションでは、長期的な太陽系探査のビジョンを関係諸学会と協力してまとめ必ことが、今期のタスクの１つである。そのために、昨年度に引き続き、会議用の費用を要請している。2015年は、SGEPSS、惑星科学会とも東京付近で開かれるので、それに合わせて会議を設定し、旅費を節約する予定である。

・連合大会においては、宇宙惑星科学セクションは約半数が国際セッションであり、招聘旅費の要望が強い。とくに、セクションから、「宇宙惑星科学における国際協力」というセクションの基幹と位置づけたセッション提案をしており、（なるべく他の資金を活用しながらも）、全体で少なくとも２名程度のサポートをいただきたい。（近隣国であれば３名）。

・連合大会の間に学生発表賞に関する会合を行う予定である。

大気水圏科学セクション

・連合大会において国際セッションに出席する海外研究者に旅費・参加費を支給しセッションを支援する。

・連合大会時にセクションボードメンバー及び代議員を招集しセクションボードミーティングを開催する。

・大気水圏科学分野に関係する研究集会にセクションとして共催または協賛し開催を援助する。

地球人間圏科学セクション

１）連合大会における主な活動

・セクションボード会議の開催

・フューチャー・アース(ユニオン)セッションの開催(他のセクションと共同)
・学生発表賞の選考と表彰
２）地球環境問題、大規模災害、フューチャー・アース構想への対応(シンポジウム、提案、アウトリーチ、論文・報告執筆など)
３）日本学術会議地球惑星科学委員会活動との連携(シンポジウム、ロードマップ、大型研究計画など)
４）ジオユニオン活動との連携(IGU 大会, INQUA 大会など)

固体地球科学セクション
本年度においては、セクションの活動を活性化するために、セクションボードに新たなメンバーを迎え充実させる。前年度に引き続いて、①ホームページをさらに充実させる。また、②セクションの内部構造を構築するために、新たなフォーカスグループの創設を目指す。このフォーカスグループが継続的に連合大会で国際セッションを提案し、海外の組織と連携した国際会議の共催を支援する。このような新たなフォーカスグループの活動を促進するために、国際セッションを財政的に支援し、国際セッションのコンビーナーを中心に、内部組織としてのフォーカスグループを創設することを支援する。このような国際セッションの支援を通して、2016 年、2017 年の AGU などとの共催セッションの継続的な提案を可能にする。さらに③このセクションの褒賞制度を充実させるために、連合の顕彰委員会と緊密に連携して新たな褒賞制度を確立する。

地球生命科学セクション
・2014 年連合大会地球生命科学関連セッション（国際セッション含む）開催
・地球生命科学の長期的ビジョンの模索

（２）各種委員会活動
各委員会では年間を通じて委員会を随時開催するとともに，担当理事を通じて理事会への活動報告を行い，意志疎通を強める．特に今年度は以下の委員会活動を推進する．

総務委員会
（前年）今年度実施される代議員及びセクションプレジデント選挙の円滑に関する準備を行う．公益社団法人の円滑な運営と体制強化のための，諸規則の整備や事務局員の増強等をはかる．

財務委員会
（前年）連合の運営基盤の強化のために，中長期的に学会運営に関して経理面の課題と対策を検討する．

広報普及委員会
・連合 2015 年大会でパブリックセッション「高校生によるポスター発表」及び「地球・惑星科学トップセミナー」，高校生・学部生向け企画「大学生・大学院生に地球惑星科学について聞いてみよう」を開催

予定
・「地球・惑星科学トップセミナー」の映像を記録して動画配信予定
・2015 年 7 月頃に広報普及委員会開催予定
・2015 年 11 月頃に「日本地球惑星科学連合 2015 年秋の公開講演会」を開催予定，映像を記録して動画配信予定
・ニュースレター誌ＪＧＬを年間４号発行予定
・メールニュース定期号を年間 12 号，臨時号を年間約 10 号程度配信予定
・ウェブサイトを活用した広報・普及事業（公開講演会等の動画配信を含む）を行う予定
・英語版ウェブサイトの充実
・2015 年度フェロー受賞者原稿の発行（ＪＧＬに掲載予定）
（2014 年度フェロー受賞記念冊子の編集・発行　＃2014 年度内もしくは 2015 年度？）

環境・災害対応委員会
（前年）環境・災害問題に関する重要課題を調査し，緊急災害発生時の連合の対応方策 を確立すると共に，連合大会においてセッション開催を提案する.

男女共同参画委員会・キャリア支援委員会
2015 年 5 月大会期間中にパブリックセッション「研究者の多様なキャリア形成を考える」、委員会を開催するとともに、キャリア支援委員会と連携してキャリア支援ブースを展開。男女共同参画学協会連絡会にて、「若手支援（仮)」ワーキンググループを新たに立ち上げ、リード役として活動する。「女子中高生夏の学校」への参加。キャリア支援委員会と連携して、第６回キャリアパスアンケートを実施。

キャリア支援委員会
・キャリアパスアンケートの実施（1 月～5 月)、結果速報の配布（連合大会時)
・2015 連合大会でのパブリックセッションまたは集会「研究者の多様なキャリア形成を考える」の開催
・2015 連合大会でのキャリアパス支援ブースの運営
・2015 連合大会での保育室の運営
・キャリアパスアンケート解析、ウェブ等での結果報告（通年)
・男女共同参画学協会連絡会対応　若手研究者育成 WG 活動（通年)
・女子中高生夏の学校への参加（８月、実行委員、ポスター発表による JpGU の宣伝など)
・秋または冬頃にキャリア関係シンポ（10 月～12 月　予定)
・委員会ウェブの整備（通年)

教育検討委員会
１．　次期学習指導要領改訂に向けて中央教育審議会の作業が始まったことに関連し、それに対する教育課程小委員会からのカリキュラム案作成及び教員養成等小委員会からの教員の研修や養成のあり方について意見や提言が出せるように準備する。
２．Future Earth や ESD において地球惑星科学がリーダーシップを取れるような体制作りをする。

３．地球惑星科学教育が十分に行われていない地域の学校・教員への支援を行う。

情報システム委員会

・My JpGU の改良などを通じて、会員サービス、会員間のコミュニケーションを向上することによる連合活動発展を支援する。

・CODATA-ICSTI データサイテーション国際タスクグループが表明しているデータサイテーション・リージョナルワークショップの開催支援を行う（あるいは共催）。国内で科学データの共有・オープンデータについて先進的に取り組む地球惑星科学分野が同会議の開催においても重要な役割を果たし、我が国の当該活動を主導することを目指す。

・上記活動を討議、必要な意思決定を行うために、適宜、委員会会合を開催する。

大会運営委員会

連合大会の参加者増を目指し，満足度の高いプログラムや企画の充実にむけた方策を企画検討する.

グローバル戦略委員会

・委員会　年 6 回開催（1 回は連合大会中）

国際化推進の為、例年年 2 回程度だったが、今年度は 2 か月に 1 回開催

・EGU・AOGS・AGU 等の連携海外組織の大会にブース出展をし、連合、ジャーナル、加盟学協会の活動紹介をする

・連合の HP の充実の為に Native にチェックを依頼する。またパブリックアナウンスメントがある場合、翻訳を依頼する

フェロー審査委員会

（前年）日本地球惑星科学連合フェロー制度は地球惑星科学において顕著な功績を挙げ，あるいは日本地球惑星科学連合の活動に卓越した貢献をされた方を高く評価し、名誉あるフェローとして処遇する事を目的としている．フェロー審査委員会は会員からの推薦に基づき，被推薦者がフェローに相応しい業績をあげ，あるいは活動をしたか評価し，会長にフェロー称号授与の可否を答申する.

地球惑星科学振興西田賞審査委員会

平成 27 年度中に選考、平成 28 年度　2016 年連合大会において表彰する

25 周年記念事業実行委員会

・2015 年連合大会にて、25 周年記念事業として、記念シンポジウム「Geoscience Ahead」を開催する。

DRAFT Considerations
2017 Joint Meeting of JpGU and AGU

Management

- JpGU will handle all management aspects of the meeting except that of the scientific program.

Society Recognition

- JpGU and AGU will jointly agree on branding such as logos and other recognition of their collaborative efforts for organizing the meeting.
- Both JpGU and AGU branding should be visible in all communications about the meeting.
- There should be a clear understanding of the governing bodies of both AGU and JpGU and their role in organizing the meeting.

Days

- 4 to 6 days as required by the programmatic content.
- AGU needs to understand how many sessions are held in English and how many in Japanese and how these are integrated as part of the overall meeting flow.

Meeting Format

- The format of the meeting should meet the objectives and member expectations of both JpGU and AGU from the science content perspective.
- Consideration should also be given to conducting other society specific business as appropriate for the location, i.e., official ceremonies, selection of special lectures or plenaries, workshops, committee meetings, etc.
- To encourage group participation and attendance, facilities and support should also be made available (at a fee) for attendees to self-organize and conduct non-JpGU / AGU meetings while attending the main meeting.

Program Committee and Science Content

- We recommend two co-chairs to preside over the scientific program committee, one appointed by JpGU and the other by AGU.
- The scientific disciplinary interests of both societies must be covered as part of the programming.
- The program committee should include representatives to cover the broad spectrum of sciences from both societies.
- Opportunities for the inclusion of transdisciplinary and policy sessions should be considered as part of the programming.
- It important to have a large number of sessions presented in English throughout the meeting in order to attract a community of non-Japanese speaking scientists.
- Meetings of the program committee can be conducted at the annual meetings of AGU or JpGU, if appropriate.
- One face-to-face meeting of the program committee is recommended after the abstract deadline for the purpose of scheduling the meeting. Both AGU and JpGU representatives

should participate and at least one AGU staff. Expenses for this meeting should be included as part of the meeting budget.

Society Events

- JpGU and AGU will both have opportunities to hold events and make award presentations at the meeting, if necessary. Expenses will be offset by ticket sales with registration or by the society.
-

Registration

- Attendees must be allowed to affiliate with both JpGU and/or AGU as part of the registration process.
- AGU would like a report after the meeting to include certain statics such as society membership, country, student vs. professional attendees, etc. to help assess AGU's overall participation and impact on the meeting.

Marketing/Promotion

- AGU, JpGU and cosponsoring societies, if any, are responsible for promoting the meeting to their membership. Most promotional efforts will be done through electronic communications.
- AGU and JpGU will share equal status in all announcements, promotions, and printed collaterals for the Joint Meeting. The meeting must look like a joint effort, respecting the culture of the host, but in recognition of the spirit of the collaboration.

Meeting Venues

- JpGU is responsible for selecting the venue since the meeting is held in Japan.
- If the venue for the 2017 meeting has not already been selected, AGU would like to be consulted about the cities under consideration.

Communication

- JpGU is responsible for communicating frequently with AGU staff, the program committee, and other leaders as appropriate throughout the planning process.
- In recognition of the joint nature of the meeting, all communication must be provided in both Japanese and English.

Finances

- JpGU will be responsible for all financial matters for the meeting including any risks.
- AGU cannot suffer liability for losses or claims that can arise from the meeting unless there has been negligence or misconduct on AGU's part.
- Travel for AGU Program committee members and direct staff support (1 person) will be included within the meeting budget and reimbursed to AGU within 30 days of documented expense submission
- In consideration of AGU's contributions to the science content and promotion and marketing efforts, AGU would expect guaranteed funds of $100,000 U.S. Payment is expected to be transmitted 30 to 60 days after the meeting.
    - Note: this is just one approach. An alternative could be a stepped payment dependent on attendance

DRAFT

- AGU requests $20,000 to offset travel expenses of AGU leaders and staff to attend the actual meeting in 2017. These funds will be used for air travel, hotels and meals.
- All other items required to carry out a successful meeting will be included as part of the meeting budget.
- AGU would like to review and provide input to the meeting budget prior to JpGU setting the registration fees.

Other

- AGU will require an office space at the meeting venue for the purpose of holding committee meetings and other AGU business.
- AGU would also like to receive a minimum of 2 complimentary exhibition spaces during the meeting.

Termination

Agreement terminates in 120 days after the 2017 meeting unless a new agreement is signed.

DRAFT

基本的には、たいへん前向きで、やるからには力を入れるという意気込みが伝わってきました。
詳しい報告は、Fatimaが月曜にはminutesを送ると言っていました。（未着）

Action Item:2015, 16, 17年とプログラム策定のスケジュールを入れた表を12/15の会合まで用意しておく。
理事会を経てAGUの会合に臨むと伝える。理事会で要審議。
ジョイントの予算見積もりは見せていない。
AGU側の示した100K+20Kは、こちらの推測とほぼ同じボールパークであると伝達。

＜2015シンポジウム＞

プログラム構成、中堅メンバーの発表、会場規模、レセプション、軽食用意など説明。
声明を作るのは賛成。４ユニオンが集まる世界初めて。
Action Item:テンプレートを用意して12/15に提示。
　2017年にAGUとジョイントをやることは謳いあげたい（OK）
2015大会の開会式があるのか？（あれば関われるか？）要連絡
2015/16/17と積み上げて行く内容を協議していきたい（OK）
 たとえば、論文の書き方ワークショップとか。日本在住のエディターなど紹介できる。
EOSにニュースを載せたい（来週から世界にオープンなインタラクティブ版になる
Action Item: JpGUから５００語くらいのニュースを投稿して欲しい）
（印刷版も残る）Taira Prizeのアナウンスのタイミング。
Margaret and Carolは登録不要で旅費も出す。
Chrisほかは旅費は出せないが予約など助ける。
Fellows Receptionも歓迎。
AGU Boothも設ける（無料）。

＜AGUで発表するにはAGU会員＞

JpGUも同じポリシーで理解する。
AGUの場合invitedであれば､AGU会員であるかを問わない。(もちろんJoint meetingであれば、問わない。)

＜2016ジョイントセッション＞

コンビーナーが勝手にジョイントと称するのではなく、ユニオンとしての真のジョイントセッションは、AGUとEGUが今年初めて実施した（”Great Debate”?）。
Action Item: 2016にジョイントセッションデーを設けられないか？両ユニオンのプログラム委員会が共同作業する。(要スケジュール)
Chapman Conferenceを同時開催するか連結させるかも考えられる。

新大統領、新科学アドバイサーが決まる年である。科学ポリシーの国際セッションを企画するのはどうか？（米国新科学アドバイサーを呼ぶことも視野に入れる）

関連して、AOGSとは12/16にSFで協議するが、ジョイントミーティングとする方針である。WPGMとは呼ばないが、AOGS-AGU Western Pacificと呼ぶ。

AGU理事会の方針として、海外の大会をAGU単独で開催することはしない。

＜2017年（Draft considerations）＞

Management　（OK）ただし、AGU側は協議によって協力できる。
Society Recognition (OK)
Days 現在は日数は決まってない(と返答)。セッション数は５０％の目標を説明。
AGU側は150以上を目安としたい（Frank）。
金沢 WPGMでは日本語セッションが終了後英語セッションに切り替えた。

要は、日本語セッションしかない時間帯がないことが望ましい。日本語セッションでも英語が付随することは説明。

Meeting Format (OK)

Program Committee and Science Content (OK)　ここは重要なので、細部の詰めは必要。AGUも理解。セッションをくっつけるのはアブストラクトサブミッションの前にやる（現在と同じ？）。

Action Item:共同プログラム委員会でジョイントにふさわしいテーマのセッションを設定することも考える。

プログラム委員会の権限に関して、予算の論議をするのか聞かれ、この委員会ではないと返答。AGU側もそうではないが、確認をしたかった。

Action Item:2017年は何かのxx周年記念になるか？（要返答）

Society Events (OK)

Registration (OK)　ジョイントのインパクトを数値化したい件についてはJpGU側も同様であると返答。

Marketing/Promotion (OK)　AGUは張り切っている印象である。

Meeting Venue: Makuhari, Chiba決まっている。

Action Item :参加者が１万人を超えても収納できる？（要確認）

AGU側の人集めの自信が伝わった瞬間でした。

「１万人」云々は、会員が全員来た場合のさらにプラスアルファということです。2014年の有料参加者が4500名なので、それにプラスアルファで6000人に到達するのが非現実的とはAGU側が思わないという意味に解してください。

＜Communication＞ (OK)

Finances:　1万人参加の場合（上記参照）の推定も含めてコストプロジェクションを作る。AGU側としては100+20Kあれば、日本側がが折半を超える収入になっても、それはそれでよい。120Kについては、公益法人としての報告義務に合わせた情報をAGU側から受け取る。

MOUにあるfinancial obligationとは抵触しない。別途、合意書を交わすことになる

Action Item:（要協議：財務と学会内容と２本立てとか）。

2017年会議だけのためであるが、将来の構想を練ることも条項に入れるのはどうか？（OK／考えるという意味）
為替レート、採用通貨は協議で決めればよい。

AGUは2019年の予定を今回のAGU大会で協議する（つまりそれだけ先を構想する）。巨額の科学への投資がアジア域で行われているので、成果の国際表出のニーズがあるはず（AGU の見方）。